

9 F.M.P.(フルミュージックプログラマー)

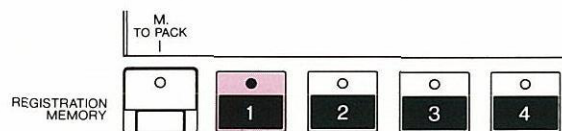
エレクトーンの演奏をリアルタイムに録音し、再生させることができます。

演奏を録音する操作(レコード)

録音モードへの入り方

1 演奏で使うレジストレーションをあらかじめメモリーしておく。

録音モードに入る前に、演奏で使用するレジストレーションを、レジストレーションメモリーに必要なだけ記憶させ、曲の最初で使うレジストレーションメモリーの数字ボタンをONにしておいてください。(⇒18ページ)



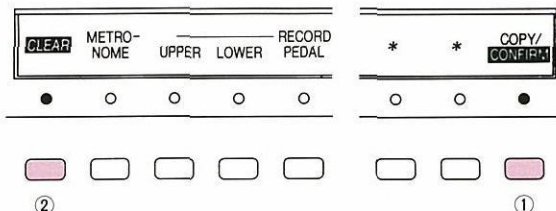
(図はHS-8以外の機種)

ノート:F.M.P.では、オートベースコードをONにしても、OFFにしても伴奏を録音することができます。オートベースコードを使って演奏する場合は、マルチメニューでモードを選び、パネルのA.B.C. ONボタンを点灯にして、それをレジストレーションメモリーに記憶させてください。(⇒62ページ)

注意:録音モードに入る前に、パネルで変更したレジストレーションは、F.M.P.に記録されません。パネルでレジストレーションを変更した場合は、必ず、レジストレーションメモリーに記憶させてください。また、レジストレーションメモリーに記憶させたデータは、録音終了後にRAMパックへ移しておきましょう。(⇒53ページ)

2 コピー/コンファームボタン①を押しながら、クリアボタン②を押す。

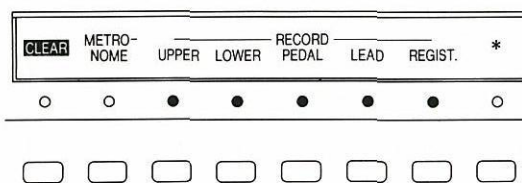
レコードセクションのランプがすべて点灯になり、録音できる状態になったことを示します。



注意:すでに演奏が録音されている場合は、この後F.M.P.スタートスイッチを押すと、そのデータがすべて消去されます。データを消したくない場合は、RAMパックまたはカセットテープにデータを移しておいてください。(⇒54ページ)

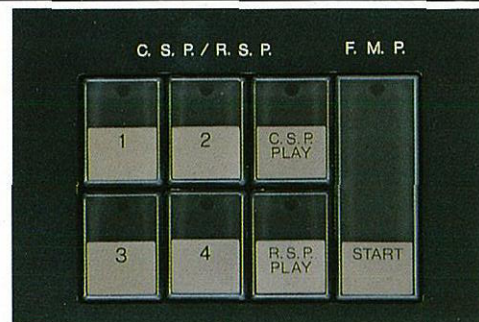
3 録音するパートを選ぶ。

レコードセクションの5つのボタンは、各パートを録音するトラックをON/OFFする働きをもっています。



アップパー	上鍵盤の演奏データを録音するトラック。
ロワー	下鍵盤の演奏データを録音するトラック。オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードを選んでいる場合は、ベース伴奏のデータも録音される。
ペダル	ペダル鍵盤の演奏データを録音するトラック(オートベースコードをOFF、またはカスタムA.B.C.を使って録音する場合)。
リード	リードボイスによる演奏データだけを、上鍵盤の演奏データとは別に録音することができるトラック。
レジスト	各鍵盤の演奏データとは別に、レジストレーションメモリーの切り替えなどのデータを記録するトラック。

これら5つのボタンは、録音モードに入った時点で自動的にすべてONになります。この状態で、3つの鍵盤を弾いて全パートを同時に録音することもできますが、まず伴奏のパートから録音してみましょう。



[データをクリアせずに、録音モードに入る操作]

左記の操作で録音モードに入り、F.M.P.スタートスイッチを押すと、それまでエレクトーンに記録されていたF.M.P.のデータが消去されてしまいます。すでに録音したデータを消去しないで、特定のパートだけ録音しなおしたい場合は、クリアの操作を行わずに、次のように操作してください。

- ①レコードセクションで、録音しなおしたいパートのボタンをONにする。
- ②プレイセクションで、その他のパートのボタンをONにする。
- ③F.M.P.スタートスイッチをONにして、録音する。

レコードセクションでONにしたトラックのデータだけが、F.M.P.スタートスイッチを押した時点で消去され、そのトラックだけ録音できます。

[F.M.P.のメモリー容量]

F.M.P.に録音できる最長時間は、演奏の内容(音符の数やレジストレーションデータの数)によって異なります。

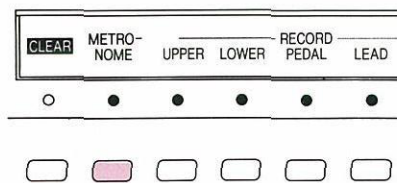
- 通常の演奏では、約3分の曲が録音できます。
- メモリー容量は、5つのトラックごとにカウントされます。あるトラックのメモリー容量がフルになると、レコードセクションのボタンのうち、そのトラックに対応したボタンのランプが点灯から消灯になります。
- 録音の途中で、メモリー容量がフルになった場合は、音符の数を少なくするなど、データ数を減らして、そのトラックのみ録音をやり直してください。

[全パートの同時録音]

3つの鍵盤を弾いて全パートを同時に録音し、そのまま再生したい場合は、次のように操作してください。

- ①コピー/コンファームボタンを押しながら、クリアボタンを押す。
レコードセクションの5つのボタンが自動的にONになります。
- ②F.M.P.スタートスイッチをONにして、演奏を開始し、演奏が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにする。
あるパートだけ弾き間違えた場合は、そのパートだけ再録音することができます。
- ③F.M.P.スタートスイッチをONにする。
プレイセクションの5つのボタンが自動的にONになり、録音した演奏が再生されます。

[メトロノーム]



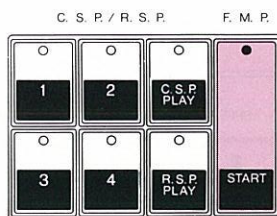
録音時に、このボタンをONにしておくと、F.M.P.スタートスイッチを押してから、リズムをスタートさせるまでの間、メトロノーム音が発音します。曲の先頭にイントロを入れずに伴奏を録音する時や、リズムを使わない演奏を録音する時などにお使いください。

伴奏の録音

4 パネルのF.M.P.スタートスイッチをONにする。

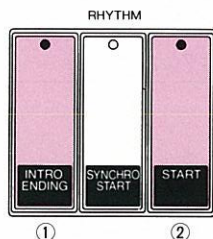
パネルにあるF.M.P.スタートスイッチをONにすると録音状態になりますから、いつでも演奏を始めてください。

ノート: 録音はF.M.P.スタートスイッチをONにした時点から開始されます。したがって、スイッチをONにしてから、演奏を始めるまでの空き時間もブランクとして記録されます。



5 必要に応じて、リズムのイントロ/エンディングスイッチ①を押してから、スタートスイッチ②を押す。

伴奏だけを先に録音する場合は、リズムのイントロパターンを曲の先頭に録音しておきましょう。後でメロディーパートを録音する時、演奏を始めるタイミングが分かりやすくなります。

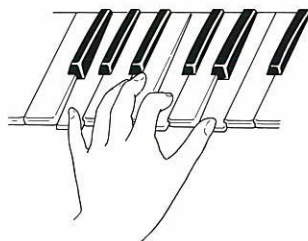


ノート: 伴奏の録音時に、曲の最初に使うレジストレーションを記録する場合は、レコードセクションのレジストボタンがONになっていることを確認して、F.M.P.スタートスイッチをONにした後、レジストレーションメモリーの数字ボタンを押してください。(⇒53ページ)

6 下鍵盤を弾いて、伴奏を録音する。

1小節のイントロパターンが終わったらリズムパターンがスタートしますから、下鍵盤を弾いて、伴奏を録音してください。

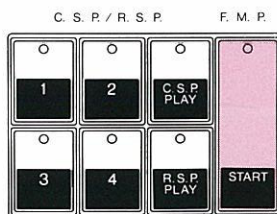
伴奏をやさしく弾くためにオートベースコードを使用する場合は、マルチメニューでセットしたモードに応じた弾き方で、下鍵盤を押さえてください。(⇒62ページ)



ノート: オートベースコードのカスタムA.B.C.で伴奏を録音する場合は、レコードセクションのロワーとペダルボタンがONになっていることを確認して、下鍵盤とペダル鍵盤を弾いてください。

7 曲の最後まで伴奏を録音したら、F.M.P.スタートスイッチを押して、OFFにする。

伴奏の録音が終わったら、リズムをストップさせ、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。レコードセクションの5つのボタンもすべてOFFになります。



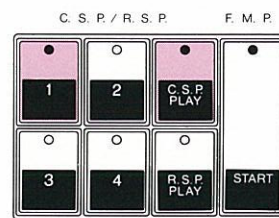
ノート: 録音中にコードを弾き間違えた場合は、レコードセクションのロワーボタンをONにして、録音をやり直してください。

[C.S.P.にプログラムした伴奏の録音]

自分で伴奏を弾くかわりに、C.S.P.(コードシーケンスプログラマー)にプログラムした伴奏を再生させ、それを録音することもできます。(⇒44ページ)

録音モードに入り、次のように操作してください。

- ①まず、F.M.P.スタートスイッチをONにする。
- ②C.S.P./R.S.P.セクションの数字ボタンとC.S.P.プレイボタンをONにする。



- ③リズムをスタートさせると、C.S.P.にプログラムした伴奏が再生され、F.M.P.に録音される。

●C.S.P.を再生すると、プログラムしたレジストレーションのデータが、伴奏と一緒に再現されます。レコードセクションのレジストボタンがONになっていれば、再現されるレジストレーションもF.M.P.に記録されます。(⇒53ページ)

[リズムを使わない演奏の録音]

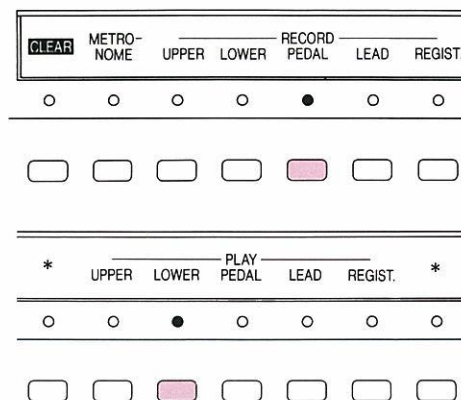
F.M.P.では、リズムをスタートさせなくても演奏の録音ができます。F.M.P.スタートスイッチをONにして、リズムをスタートさせずに演奏を開始してください。F.M.P.スタートスイッチをOFFにするまでの演奏が、そのまま録音されます。

リズムを使わない演奏の録音では、テンポをキープするため、メトロノームボタンをONにすると便利です。

[ペダル鍵盤を弾いてベース伴奏を録音する場合]

オートベースコードを使わずに、下鍵盤の伴奏とペダル鍵盤の伴奏を別々に録音することもできます。

- ①パネルのA.B.C. ONボタンをOFFにする。
- ②レコードセクションのロワーボタンがONになっていることを確認し、F.M.P.スタートスイッチをONにして、下鍵盤の演奏を録音する。
下鍵盤の録音が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。
- ③レコードセクションのペダルボタンをONにし、プレイセクションのロワーボタンをONにする。



- ④F.M.P.スタートスイッチをONにし、再生される下鍵盤の伴奏に合わせて、ペダル鍵盤を弾く。

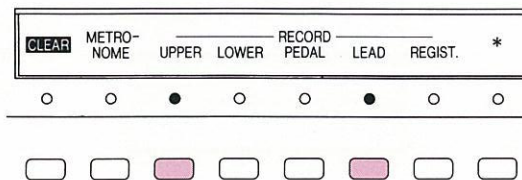
ペダル鍵盤の録音が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。

- レコードセクションのロワーとペダルボタンをONにして、下鍵盤とペダル鍵盤の演奏を同時に録音することもできます。
- 最初にペダル鍵盤の演奏を録音し、その後で下鍵盤の演奏を録音してもかまいません。

メロディーの録音

8 レコードセクションのアップパーボタンとリードボタンをONにする。

上鍵盤でメロディーを弾く音色として、アンサンブルのボタンでどの音色群をセットしているかによって、アップパーまたはリードボタンをONにしてください。

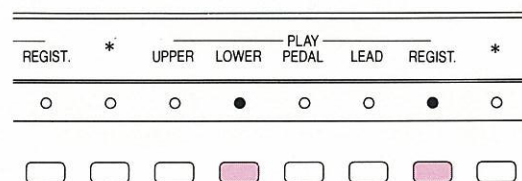


リードボイス以外の音色群とリードボイスと一緒にメロディーを弾く場合	アップパーボタンとリードボタンを両方ともON。
リードボイス以外の音色群でメロディーを弾く場合	アップパーボタンだけON。
リードボイスでメロディーを弾く場合	リードボタンだけON。

9 プレイセクションのロワーボタンとレジストボタンをONにする。

プレイセクションのロワーボタンをONにしておくことによって、すでに録音した伴奏を再生させながら、メロディーを録音することができます。

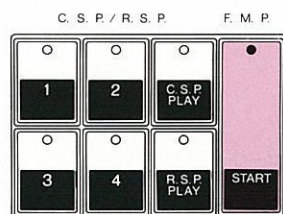
またレジストボタンをONにすることによって、伴奏を録音した時に記録したイントロとリズムパターンを再生させることができます。なお、曲の先頭でレジストレーションメモリーの数字ボタンを押した場合は、それも再現されます。



ノート: カスタムA.B.C.モードまたはオードベースコードをOFFにしてペダル鍵盤の演奏を録音した場合は、プレイセクションのペダルボタンもONにしてください。

10 F.M.P.スタートスイッチをONにする。

記録したイントロが発音した後、リズムがスタートし、録音した伴奏が再生されます。



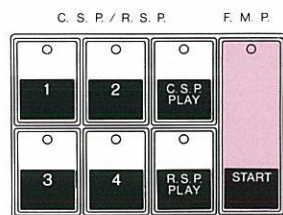
11 上鍵盤を弾いて、メロディーを録音する。

再生されるリズムと伴奏に合わせて、タイミングよくメロディーを弾いてください。



12 最後までメロディーを弾いたらF.M.P.スタートスイッチを押してOFFにする。

メロディーの録音が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。レコードセクションとプレイセクションのボタンがすべてOFFになります。

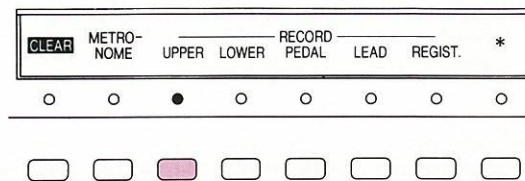


ノート: メロディーを弾き間違えた場合は、レコードセクションのアップパーボタン、リードボタンをONにして、録音をやり直してください。

【オブリガートの録音】

F.M.P.では、リードボイスによる演奏だけを上鍵盤のトラックとは別のトラックに録音することができます。これを利用すれば、メロディーを録音した後、さらにオブリガート(またはカウンターメロディー)の録音ができます。(以下の操作は、オブリガートをリードボイスで録音する場合)

① リードボイス以外の音色群をセットし、レコードセクションのアップパーボタンをONにする。

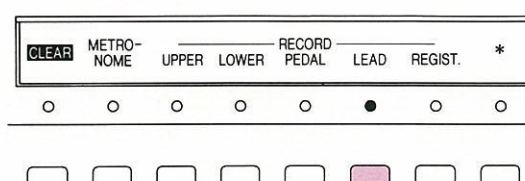


必要に応じて、プレイセクションのボタンもONにしてください。

② F.M.P.スタートスイッチをONにして、上鍵盤でメロディーを弾いて録音する。

録音が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。

③ リードボイスをセットし、レコードセクションのリードボタンをONにする。



必要に応じて、プレイセクションのアップパーボタンなどをONにしてください。

④ F.M.P.スタートスイッチをONにして、オブリガートを上鍵盤で弾いて録音する。

録音が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにしてください。

●最初にリードボイスでメロディーを録音し、その後でリードボイス以外の音色でオブリガートを録音することもできます。

●リードボイスによる演奏と、それ以外の音色による演奏を別々に録音した場合は、アンサンブルのボタンで、リードボイスとそれ以外の上鍵盤の音色群が同時に発音するようにセットし、そのレジストレーションを記録させてください。(➡53ページ)

●HS-4以外の機種では、アンサンブルのボタンで、リードボイスだけが発音するようにセットし、リードのトラックに録音すれば、後着優先で発音する演奏を録音することができます。全パートを再生させると、リードボイス以外の音色も一緒に再生されますが、リードボイスによる演奏は、録音したとおりに後着優先で発音します。(通常の演奏では、リードボイスとそれ以外の音色を同じ鍵盤で発音させると、リードボイスは高音優先で発音します。)

●リードボイスによる録音は、上鍵盤だけで行うことができます。下鍵盤では録音できません。

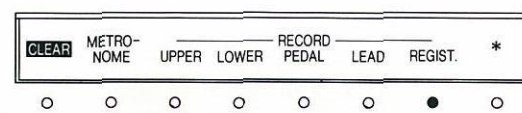
【タッチトーンをONにしている場合】

F.M.P.の録音時に、マルチメニューにあるタッチトーンのボタンをONにしておけば、鍵盤を押さえた時のイニシャルタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(➡57ページ)

●F.M.P.に録音されるのは、イニシャルタッチによる変化のみです。アフタータッチによる変化は録音されません。

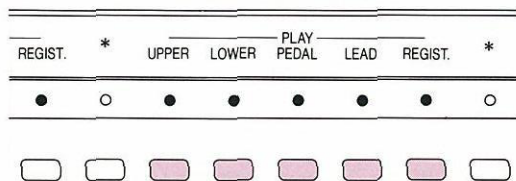
レジストレーションの記録

13 レコードセクションのレジストボタンをONにする。



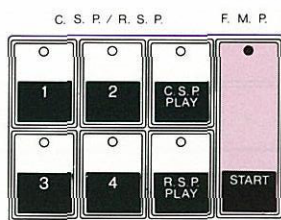
14 プレイセクションのボタンをONにする。

録音したパートのボタンをONにしておくことによって、演奏を再生させながら、レジストレーションパートの記録が行えます。また、プレイセクションのレジストボタンをONにすることによって、伴奏の録音時に記録したイントロとリズムパターンを再生させることができます。

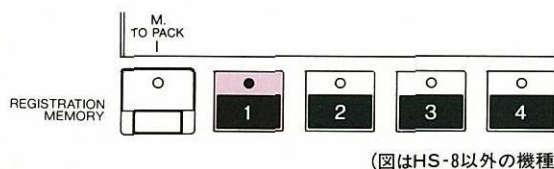


ノート: レジストレーションのパートだけは、レコードセクションとプレイセクションのボタンを同時にONにすることができ、すでに記録した基本的なレジストレーションを再生させながら、それをエディットすることができます。

15 F.M.P.スタートスイッチをONにして、曲の最初で使うレジストレーションメモリーの数字ボタンを押す。



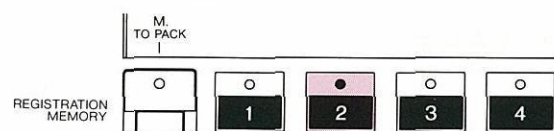
曲の先頭に、レジストレーションメモリーの数字ボタンを記録しなかった場合は、F.M.P.スタートスイッチをONにしてから、再生が始まるまでの間に、数字ボタンのいずれかを押してください。



ノート: 曲の先頭にプログラムされるレジストレーションだけは、数字ボタンを押さなくても、その時ONになっていた数字ボタンが自動的にプログラムされます。このレジストレーションを変更しなくてもよい場合は、上記の操作を行う必要はありません。

16 再生を聞きながら、レジストレーションを変更する。

記録したイントロが発音した後、リズムがスタートし、録音した伴奏とメロディーが再生されます。再生を聞きながら、タイミングよくレジストレーションメモリーの数字ボタンを押して替えてください。

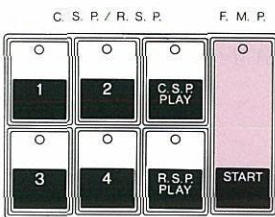


ノート: パネルのボタンやスイッチを押して切り替えたレジストレーションも記録されます。フィルインやエンディングの追加、音色やリズムパターン、音量の変更などを、必要に応じて、行ってください。

ノート: レジストレーションの切り替えは、メモリー容量の範囲内であれば、何度でも行うことができます。

17 最後までレジストレーションの記録が終わったら、F.M.P.スタートスイッチをOFFにする。

ノート: レジストレーションの変更などをやり損なった場合は、最初から記録をやり直す必要はありません。上記と同様の操作で、間違えた箇所をエディットしてください。

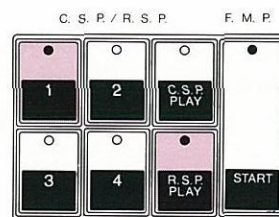


[R.S.P.にプログラムされたリズムシーケンスの記録]

R.S.P.にプログラムしたリズムシーケンスを再生させながら、それをF.M.P.に記録させることもできます。(⇒48ページ)

レコードセクションのレジストボタンをONにして、次のように操作してください。

- ①まず、F.M.P.スタートスイッチをONにする。
- ②C.S.P./R.S.P.セクションの数字ボタンとR.S.P.プレイボタンをONにする。



- ③リズムをスタートさせると、R.S.P.にプログラムしたリズムシーケンスが再生され、F.M.P.のレジストレーションパートに記録される。

- C.S.P.のレジストレーションシーケンスだけを再生させ、それをF.M.P.に記録したい場合は、R.S.P.プレイボタンをONにせずに、数字ボタンだけをONにしてください。

[記録されるレジストレーションデータの範囲]

- 記録されるのは、レジストレーションメモリーの何番のボタンを押したかというデータ、および録音の途中で、パネルのボタンやスイッチのうち、どれを押したかというデータです。
- レジストレーションメモリーに記憶させている内容は記録されません。
- レコード時と再生時でレジストレーションメモリーに記憶させている内容が異なっていると、レコード時とは違ったレジストレーションが再生されます。レコード時のレジストレーションを再生させたい場合は、録音の終了後、RAMバックなどにレジストレーションメモリーのデータを移しておいてください。(⇒20ページ)

[F.M.P.のレコードにあたって]

- 各トラックへの録音は、F.M.P.スタートスイッチをOFFにした時点で終了します。リズムをストップさせても録音状態は続いています。
- 各トラックに録音した演奏の長さが異なっていると、そのうち一番長い演奏の終わりまで再生が続きます。各トラックごとに録音する場合は、リズムをストップさせるタイミングや演奏の終了後にF.M.P.スタートスイッチをOFFにするタイミングをなるべく統一するようにしてください。
- F.M.P.に録音したデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)
- エクスペリメンタルペダル、HS-8のホイールによるコントロールは、F.M.P.に記録されません。

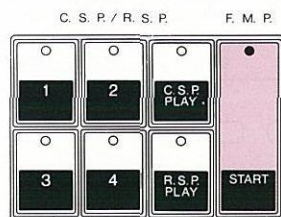
- 注意: MDR-2Pなどの外部機器に演奏を録音する場合、その時エレクトーンに記録されているF.M.P.のデータが録音開始時に送信されますが、その記録に約40秒以上の時間を要します。F.M.P.のデータを外部機器に記録する必要がない場合は、エキスターナル/MIDIコントロール機能で、F.M.P.のデータだけを送信しない状態に切り替えることができます。(⇒76ページ)

演奏を再生させる操作(プレイ)

1 F.M.P.スタートスイッチをONにする。

プレイセクションの5つのボタンがすべてONになり、全パートの再生がスタートします。

ノート: 録音終了後に、レジストレーションメモリーのデータをRAMパックに移した場合は、あらかじめフロムパックの操作で、データをエレクトーンに戻してから、上記の操作を行ってください。



2 必要に応じて、上乗せ演奏をする。

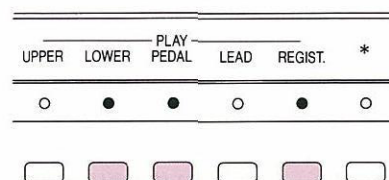
再生される演奏を聴いて楽しむほかに、上乗せ演奏を楽しむことができます。再生に合わせて、上鍵盤または下鍵盤でオブリガートやカウンターメロディーなどを弾いてみましょう。

再生が終わると、F.M.P.スタートスイッチは自動的にOFFになります。

「マイナスワン再生」

特定のパートだけを再生させ、再生させなかったパートを自分で弾きたい場合は、次のように操作してください。

①プレイセクションで、再生させたいパートのボタンだけをONにする。(下図は上鍵盤のマイナスワン再生を行う場合)



②F.M.P.スタートスイッチをONにして、再生していないパートを演奏する。

「F.M.P.の再生にあたって」

- F.M.P.スタートスイッチは、マルチメニューの面がF.M.P.以外になっている時でもONにすることができ、いつでも再生できるようになっています。
- 上乗せ演奏をする場合の同時発音数は、上・下鍵盤とも、再生される発音数と合計して、最大7音までです。また、リードボイスが再生されている時は、リードボイスによる上乗せ演奏は発音しません。
- 注意: 非常にゆっくりとしたテンポで録音した演奏を再生すると、録音した時のタイミングと多少ずれて再生される場合があります。

「RAMパックRP-3を使用する場合の注意」

- 左記の操作によってRAMパックRP-3に移せるのは、F.M.P.のデータのうち、アッパー、ローワー、ペダル、リードの各トラックに録音した演奏データです。
- F.M.P.に長目の曲を録音した場合は、エラーとなって、データがRP-3に移らないことがあります。
- その他にもエラーとなるケースがありますので、操作方法などを間違えていないかどうかを確認してください。(➡20ページ)

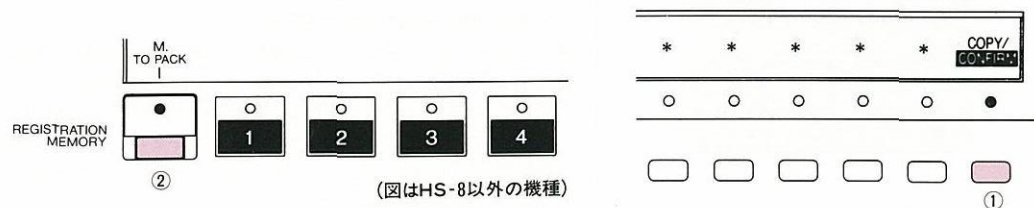
「F.M.P.のデータをフルに保存しておきたい場合」

レジストレーションのデータも含めて、F.M.P.のデータをそのまま保存しておきたい場合は、RAMパックRP-5、またはカセットテープにデータを移してください。

- RP-5を使用する場合の操作方は、RP-3の場合と同じです。
- PR-5にF.M.P.の全データを移すと、F.M.P.の全データのほかに、その時エレクトーンが記憶しているすべてのデータ(レジストレーションメモリーのデータ、ユーザーボイスのデータ、ユーザーパターンのデータ、C.S.P./R.S.P.のデータ)も一緒に移ります。
- カセットテープにデータを移す場合は、パネルのコンファームボタンを押しながら、トゥーパックボタンを押します。(➡21ページ)

録音したデータをRAMパックに移す操作(トゥーパック)

コピー/コンファームボタン①を押しながら、トゥーパックボタン②を押す



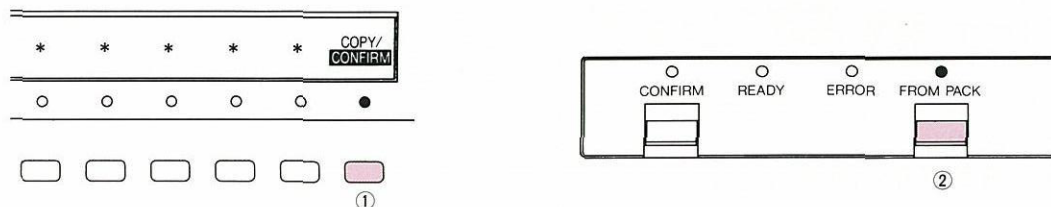
まず、RAMパックをエレクトーンに装着し、レディのランプが点灯になるのを確認してください。次に、マルチメニューのF.M.P.の右端にあるコピー/コンファームボタンを押しながら、レジストレーションメモリーセクションにあるトゥーパックボタンを押してください。トゥーパックボタンのランプが点滅し、F.M.P.のデータがRAMパックに移ったことを示します。

注意: RAMパックRP-3には、レジストレーションのトラックに記録したデータは移らないようになっています。

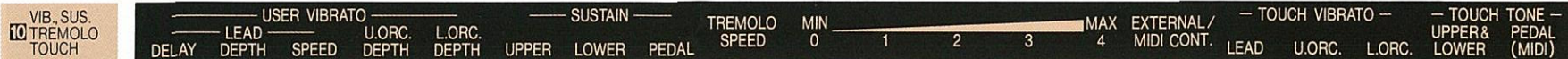
注意: 上記の操作を行うと、それまでRAMパックに記憶されていたデータが消え、F.M.P.のデータに置き替わってしまいます。

RAMパックのデータをエレクトーンに戻す操作(フロムパック)

コピー/コンファームボタン①を押しながら、フロムパックボタン②を押す。



RAMパックに移したF.M.P.のデータをエレクトーンに戻したい場合は、コピー/コンファームボタンを押しながら、フロムパックボタンを押してください。フロムパックボタンのランプが点滅して、RAMパックのデータがエレクトーンに移ったことを示します。



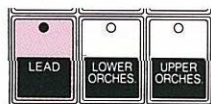
10-(1) ユーザービブラート

リードボイスとオーケストラルボイスにかかるビブラート効果のかかり具合を自分でセットすることができます。

リードボイスのユーザービブラートのセット

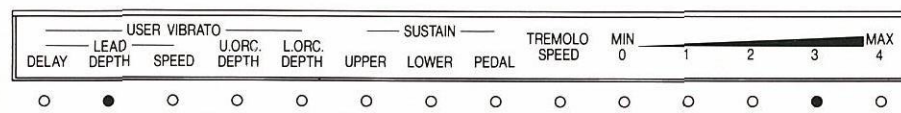
1 パネルでリードボイスをセットし、ユーザービブラートのリードボタンをONにする。

リードボイスのボリュームとアンサンブルのボタンをセットし、ユーザービブラートのリードボタンをONにしてください。



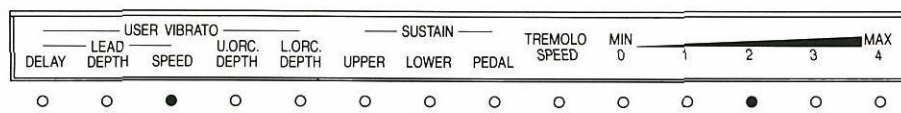
USER VIBRATO

2 ビブラートのデプス(深さ)をセット。



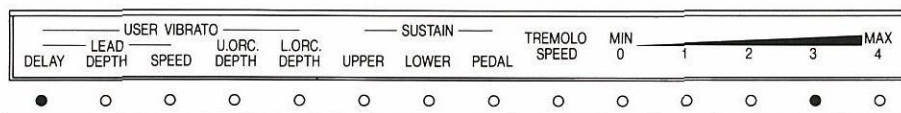
左端から2番目のデプスボタンをONにすると、0~4のランプがひとつ点灯しますが、これが現在セットされているビブラートの深さです。リードボイスの音をだしながら、0~4のボタンのひとつを押して、ビブラートの深さをセットしてください。0を選べるとビブラートはかからなくなり、4を選べるとビブラートが最も深くかかようになります。

3 ビブラートのスピード(速さ)をセット。

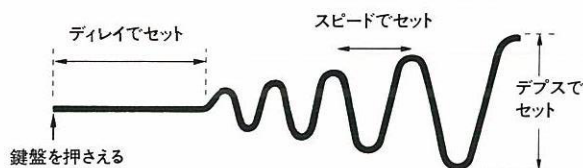


次に、スピードボタンをONにして、デプスのセットと同様に、0~4のボタンのひとつを押して、ビブラートのスピードをセットしてください。0を選べると最も遅くなり、4を選べると最も速くなります。

4 ビブラートのディレイ(遅れ時間)をセット。



次に、左端のディレイボタンをONにして、デプスとスピードのセットと同様に、0~4のボタンのひとつを押して、ビブラートのディレイ(鍵盤を押してからビブラートがかかり始めるまでの遅れ時間)をセットしてください。0を選べるとほとんど遅れ時間がなくなり、4を選べると遅れ時間は最長になります。



5 鍵盤を弾くと、セットしたビブラートがかかる。

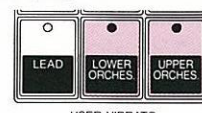
セットしたユーザービブラートのデータは記憶されますから、パネルにあるユーザービブラートのリードボタンをONにすることで、いつでもセットしたビブラートが得られます。



USER VIBRATO

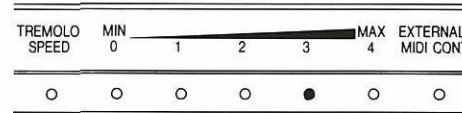
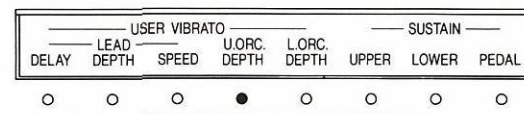
オーケストラルボイスのユーザービブラートのセット

① パネルで上・下鍵盤のオーケストラルボイスをセットし、ユーザービブラートのアップパーオーケストラルとローワーオーケストラルボタンをONにする。



USER VIBRATO

② ビブラートのデプスをセット。



まず、アップパーオーケストラルデプスのボタンをONにし、0~4ボタンのひとつを押して、上鍵盤オーケストラルボイスにかかるビブラートのデプスをセットします。

下鍵盤オーケストラルボイスにかかるビブラートのデプスは、ローワーオーケストラルデプスのボタンをONにして、0~4ボタンのひとつを押してセットします。

③ 鍵盤を弾くと、セットしたビブラートがかかる。

パネルにあるユーザービブラートのアップパーオーケストラル、ローワーオーケストラルボタンをONにすれば、いつでもセットしたビブラートが得られます。

[ビブラートのデータをメモリーする使い方]

マルチメニューでセットしたユーザービブラートのかかり具合は、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、いろいろなユーザービブラートのデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押すだけで、ビブラートのかかり具合が切り替わり、とても便利です。(→18ページ)

[ユーザービブラートの使用にあたって]

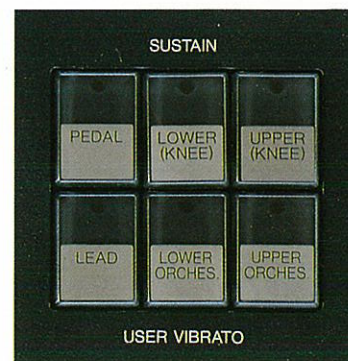
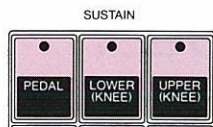
- マルチメニューでセットしたユーザービブラートは、リードボイス、上・下鍵盤のオーケストラルボイスの付点ボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。
- マルチメニューでセットしたユーザービブラートのデータは、電源をOFF(またはパネルのユーザービブラートをOFF)にしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

10-(2) サステイン

各鍵盤の音にかかるサステイン(音に余韻をつける効果)のかかり具合をセットすることができます。

- 1 パネルで各鍵盤の音色をセットし、サステインのアップパー、ロワー、ペダルのボタンをONにする。
各音色群のボリュームとアンサンプルのボタンをセットし、サステインの3つのボタンをONにしてください。

ノート:リードボイスには、サステインがかからないようになっています。

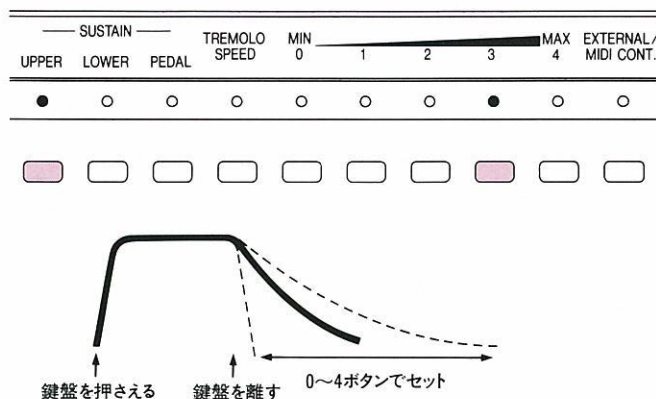


- 2 サステイン(余韻)の長さをセット。

上鍵盤のサステインのセット:アップパー ボタンをONにして、0~4ボタンのひとつを押して、余韻の長さをセットする。

下鍵盤のサステインのセット:ロワー ボタンをONにして、0~4ボタンのひとつを押して、余韻の長さをセットする。

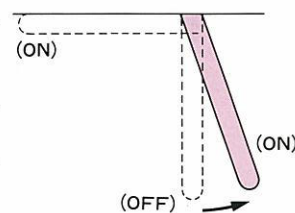
ペダル鍵盤のサステインのセット:ペダル ボタンをONにして、0~4ボタンのひとつを押して、余韻の長さをセットする。



[ニーレバーによるコントロール]

下鍵盤の下にあるニーレバーを使えば、上鍵盤と下鍵盤のサステインのON/OFFを、任意にコントロールすることができます。まず、マルチメニューでサステインの長さをセットし、パネルにあるサステインのアップパーとロワーのボタンをONにしてください。

ニーレバーを真下に立てた時:サステインは一切かかりません。
ニーレバーを右に押した時:パネルでONになっているサステインが、レバーを押している間かかります。
ニーレバーをたたんだ時:パネルでONになっているサステインが常にかかります。



[サステインの使用にあたって]

- マルチメニューでセットしたサステインは、各音色群の付点ボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。
- マルチメニューでセットしたサステインのデータは電源をOFF(またはパネルのサステインをOFF)にしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

10-(3) トレモロスピード

トレモロ効果の回転スピードをセットすることができます。

- 1 パネルでトレモロ効果をセット。(⇒16ページ)

[HS-8・HS-7・HS-6]

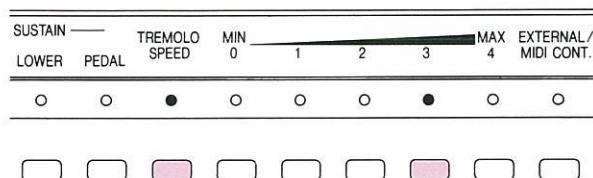


[HS-5・HS-4]



- 2 トレモロスピードをセット。

トレモロスピード ボタンをONにし、0~4ボタンのひとつを押して、トレモロの回転スピードをセットします。



[トレモロスピードのデータをメモリーする使い方]

マルチメニューでセットしたトレモロスピードのデータは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なる数字ボタンに、いろいろなデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、トレモロスピードが切り替わり、とても便利です。(⇒18ページ)

[トレモロスピードの使用にあたって]

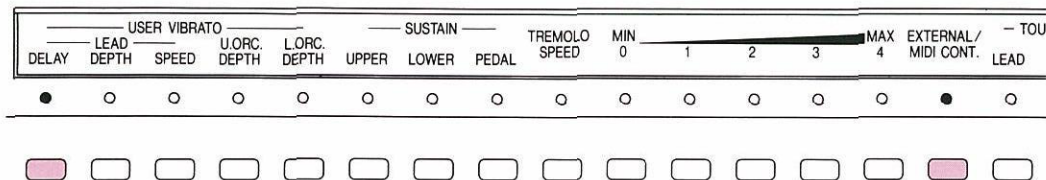
- マルチメニューでセットしたトレモロスピードのデータは、電源をOFF(またはパネルのトレモロをOFF)にしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

10-(4) エキスTERNAL/MIDIコントロール

外部機器とMIDIデータをやりとりする時、必要に応じて、モードの切り替えや特定の信号の送信が行えます。

1 MIDI端子を使って、エレクトーンと外部機器を接続する。

2 エキスTERNAL/MIDIコントロールのボタンを押しながら、マルチメニューの同じ面のボタンをひとつ押す。(⇒76ページ)



〔エキスTERNAL/MIDIコントロール機能でできること〕

左記の操作によって、次のようなコントロールができます。詳細は76ページを参照してください。

- 外部機器をリモートコントロールする信号の送信
- F.M.P.のデータを送信しない状態への切り替え
- リズム同期モードの切り替え
- リードボイスの受信チャンネルの分離
- アルペジオコードの受信チャンネルの分離
- エクスプレッションペダルのコントロールを本体で行うか外部機器で行うかの切り替え
- 上鍵盤と下鍵盤の送信チャンネルの変更

10-(5) タッチビブラート

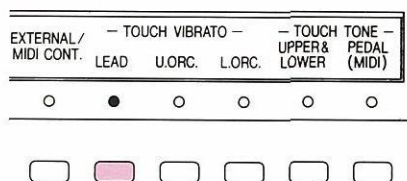
リードボイスと上・下鍵盤のオーケストラルボイスにかかるビブラートを鍵盤のタッチでコントロールすることができます。

1 タッチビブラートのボタンをONにする。

リード: リードボイスにかかるタッチビブラートのスイッチ。

アッパーオーケストラル: 上鍵盤のオーケストラルボイスにかかるタッチビブラートのスイッチ。

ロワーオーケストラル: 下鍵盤のオーケストラルボイスにかかるタッチビブラートのスイッチ。



〔タッチビブラートをメモリーする使い方〕

マルチメニューでセットしたタッチビブラートのON/OFFデータはレジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、タッチビブラートをONにしたデータとOFFにしたデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、ON/OFFが切り替わり、とても便利です。(⇒18ページ)

〔タッチビブラートの使用にあたって〕

- リード、アッパーオーケストラル、ロワーオーケストラルのボタンは、2つ以上同時にONにすることができます。
- タッチビブラートは各音色群の付点ボタンに移したボイスメニューの音色にも機能します。
- マルチメニューでセットしたタッチビブラートのON/OFFデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

2 上鍵盤または下鍵盤のアフタータッチで、ビブラートのかかり具合をコントロールする。

鍵盤を押さえる強さによって、タッチビブラートをONにした音色群にかかるビブラートのデプス(深さ)がコントロールできます。鍵盤を強く押さえるほど、ビブラートは深くかかります。(スピードは一定)

注意: 鍵盤のタッチでコントロールできるビブラートデプスの最大値は、ユーザービブラートでセットしている値になります。ユーザービブラートのデプスを0にセットしているとタッチビブラートはかかりません。

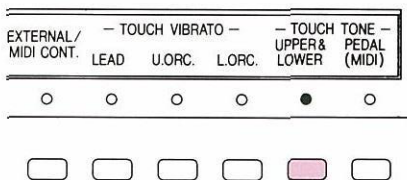
10-(6) タッチトーン

上・下鍵盤(HS-8ではペダル鍵盤も)のタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。

1 タッチトーンのボタンをONにする。

アッパー&ロワー: 上・下鍵盤のタッチトーン機能のスイッチ。

ペダル(MIDI): ペダル鍵盤のタッチトーン機能のスイッチ。



(図はHS-8以外の機種)

注意: ペダル鍵盤のタッチによって音量と音色のコントロールができるのは、HS-8のみです。それ以外の機種では、MIDIリモートキーボードなどを使用して、エレクトーンにペダル鍵盤の演奏を受信させている時に機能します。

2 鍵盤を弾き、音量・音色をコントロールする。

次の2種類の鍵盤タッチによって、音量と音色が微妙に変化します。

イニシャルタッチ: 鍵盤を叩くときの強さ(速度)によってコントロールする。強く叩くほど、音量は大きくなり、音色は明るくなる。
アフタータッチ: 鍵盤を叩いた後、さらに鍵盤を押さえつける強さによってコントロールする。強く押さえるほど、音量は大きくなり、音色は明るくなる。(パーカッション系の音色ではコントロールできません。)

〔タッチトーンをメモリーする使い方〕

マルチメニューでセットしたタッチトーンのON/OFFデータはレジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、タッチトーンをONにしたデータとOFFにしたデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、ON/OFFが切り替わりとても便利です。(⇒18ページ)

〔タッチトーンの使用にあたって〕

- タッチトーンは、各音色群の付点ボタンに移したボイスメニューの音色にも機能します。
- タッチトーンの効き具合は、音色によって異なります。
- マルチメニューでセットしたタッチトーンのON/OFFデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

11-(1) フットスイッチ

エクスプレッションペダルの左に付いているフットスイッチの働きを選ぶことができます。

1 フットスイッチのボタンで、機能を選ぶ。

フットスイッチの操作でコントロールできる機能は、大きく分けて2種類あります。

リズムコントロール: フットスイッチでリズムセクションの各種機能がコントロールできるようになります。(➡12・13ページ)

リズムストップ	フットスイッチを押すとリズムがストップし、もう一度押すと再スタートする。
エンディング	フットスイッチを押すとエンディングパターンに切り替わり、その後リズムがストップする。
フィルイン1 フィルイン2 ユーザーフィルイン	フットスイッチを押すと、選んだフィルインパターン(フィルイン1、フィルイン2、ユーザーフィルインのいずれか)が発音する。

グライド効果: フットスイッチを押すと、特定の音色の音程が半音下がり、フットスイッチから足を離すと、元の音程に徐々に戻ります。

グライド	リード	リードボイスのグライド効果のスイッチ。
	アップパーオーケストラル	上鍵盤オーケストラルボイスのグライド効果のスイッチ。
	ロワーオーケストラル	下鍵盤オーケストラルボイスのグライド効果のスイッチ。

ノート: グライドの3つのボタンは、同時にONにすることができます。

2 フットスイッチを操作する。

演奏しながら、エクスプレッションペダルの左に付いているフットスイッチを、つま先で左に押してください。マルチメニューで選んだ機能が働きます。



右のフットスイッチ (HS-8)

HS-8には、エクスプレッションペダルの両脇に2つのフットスイッチがあり、そのうち左のフットスイッチは、左記の操作で選んだ機能が働きます。右のフットスイッチは、レジストレーションメモリーの数字ボタンをコントロールする2種類の機能をもっています。(➡19ページ)

- シフト機能: フットスイッチを押すたびに数字ボタンの点灯がひとつずつ右隣にシフトしていきます。16番の次は1番の数字ボタンに戻ります。レジストレーションメモリーのM.ボタンを押しながら、右のフットスイッチを押すことで、この機能が働くようになります。
- ジャンプ機能: フットスイッチを押すことで、常に特定の番号のボタンにジャンプさせることができます。ジャンプさせる数字ボタンを押しながら右のフットスイッチを押すことで、この機能が働くようになります。
- OFF: 上記2つの機能をキャンセルして何も機能しないようにしたい場合は、コンファームボタンを押しながら右のフットスイッチを押してください。(フットスイッチを誤って押してしまい、レジストレーションが変わってしまうことを防止できます。)

[フットスイッチの選択をメモリーする使い方]

マルチメニューで選択したフットスイッチ機能のデータは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、いろいろな機能をONにしたデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、フットスイッチの機能が切り替わり、とても便利です。(➡18ページ)

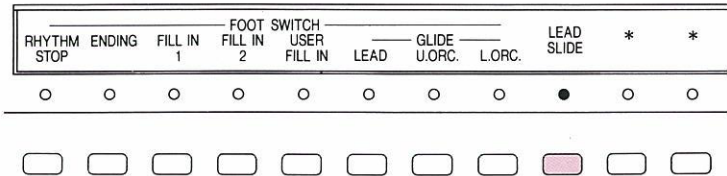
[フットスイッチの使用にあたって]

- フットスイッチを操作してグライド効果を機能させている間は、その音色にかかっているビブラート効果はキャンセルされます。
- グライド効果は、各音色群の付点ボタンに移したボイスメニューの音色にも機能します。
- マルチメニューで選択したフットスイッチ機能の情報は、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

11-(2) リードスライド

リードボイスにポルタメント(音程がスライドする効果)をかけることができます。

1 リードスライドのボタンをONにする。



2 パネルでリードボイスをセットし、鍵盤をレガートに弾く。

上鍵盤または下鍵盤をレガートに弾いてください。リードボイスにだけポルタメント効果がかけられます。

[リードスライドの使用にあたって]

- マルチメニューでセットしたリードスライドのON/OFFデータは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンにリードスライドをONにしたデータとOFFにしたデータをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、ON/OFFが切り替わります。(➡18ページ)
- リードスライドは、リードボイスの付点ボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。
- マルチメニューでセットしたリードスライドのON/OFFデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

11-(4) モジュレーションホイール(HS-8)

モジュレーションホイールでコントロールする機能を選ぶことができます。

1 モジュレーションホイールのボタンで機能を選ぶ。

GLIDE			LEAD SLIDE		PITCH WHEEL			TEMPO		MODULATION WHEEL			TRANSPOSITION		PITCH CONTROL	
LEAD	U. ORC.	L. ORC.			LEAD	U. ORC.				LEAD	U. ORC.		▼	▲	▼	▲
○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○



(図はHS-8)

ビブラート:モジュレーションホイールで、ビブラートのかかり具合をコントロールすることができます。

ビブラート	リード	リードボイスのビブラートのスイッチ。
	アッパーオーケストラル	上鍵盤アッパーオーケストラルボイスのビブラートのスイッチ。

ブリリアンス:モジュレーションホイールで、音を輝くような感じにするブリリアンス効果のかかり具合がコントロールできます。

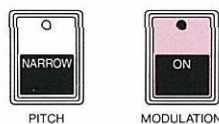
ブリリアンス	リード	リードボイスのブリリアンスのスイッチ。
	アッパーオーケストラル	上鍵盤アッパーオーケストラルボイスのブリリアンスのスイッチ。

ノート:ビブラートの2つのボタン、またはブリリアンスの2つのボタンは同時にONにすることができます。また、ビブラートのボタンとブリリアンスのボタンを同時にONにすることもできます。

2 パネルのモジュレーションONボタンを点灯にする。

点灯:マルチメニューで選択した効果を、モジュレーションホイールでコントロールできるようになります。

消灯:モジュレーションホイールを操作しても、何も機能しません。



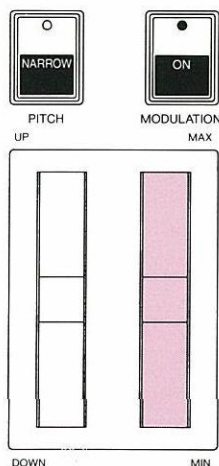
3 演奏しながら、モジュレーションホイールを操作する。

[ビブラートを選んでいる場合]

MAX側に回す:ビブラートのデプスが深くなる。

MIN側に回す:ビブラートのデプスが浅くなる。

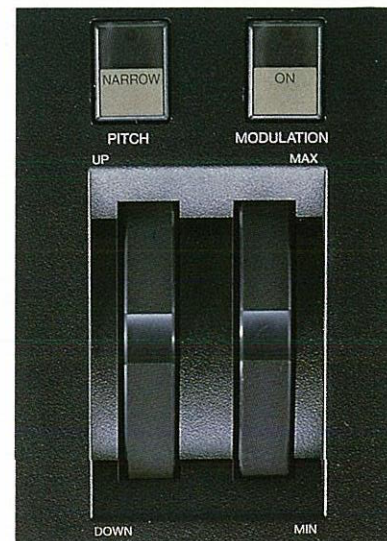
注意:ホイールでコントロールできるビブラートデプスの最大値は、ユーザービブラートのデプスでセットしている値になります。ユーザービブラートが0にセットされていて、ユーザービブラートのボタンがONになっているとビブラートはコントロールできません。(ユーザービブラートのボタンがOFFになっている時は、その音色にプリセットされているビブラートの値になります。)



[ブリリアンスを選んでいる場合]

MAX側に回す:明るく輝くような感じが強くなる。

MIN側に回す:輝くような感じが弱くなる。



[モジュレーションホイール機能をメモリーする使い方]

マルチメニューで選択したモジュレーションホイール機能のデータ、およびモジュレーションONボタンのON/OFFデータは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、いろいろなモジュレーションホイール機能をメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを切り替えるだけで、モジュレーションホイール機能が切り替わり、とても便利です。(➡18ページ)

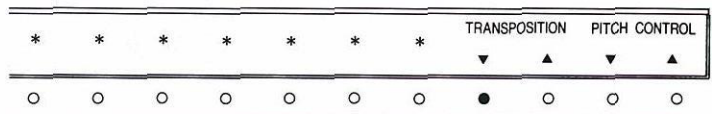
[モジュレーションホイールの使用にあたって]

- モジュレーションホイールによるビブラート、ブリリアンスは、付点ボタンに移したボイスメニューの音色にも機能します。
- マルチメニューで選択したモジュレーションホイール機能のデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

11-(5) トランスポジション

エレクトーン全体のキーを、半音の単位で、最大上下半オクターブまで変えることができます。

1 ▼ボタンまたは▲ボタンを押して、キーを変える。



□ □ □ □ □ □ □ ■ □ □ □ (図はHS-8以外の機種)

▼ボタン:1回押すたびに、キーが半音ずつ下がります。トランスポジション機能を使っていない時のノーマルなキーを“C”とした場合、▼ボタンで変えることができるキーは右のとおりです。(最高6ステップ)

ノーマルキー	▼×1	▼×2	▼×3	▼×4	▼×5	▼×6
C	B	B \flat (A \sharp)	A	A \flat (G \sharp)	G	G \flat (F \sharp)

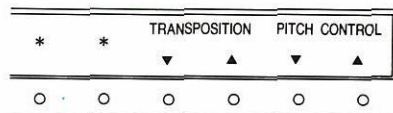
▲ボタン:1回押すたびに、キーが半音ずつ上がります。ノーマルなキーを“C”とした場合、▲ボタンで変えることができるキーは右のとおりです。(最高6ステップ)

ノーマルキー	▲×1	▲×2	▲×3	▲×4	▲×5	▲×6
C	C \sharp (D \flat)	D	D \sharp (E \flat)	E	F	F \sharp (G \flat)

2 ▼ボタンと▲ボタンを同時に押して、ノーマルなキーに戻す。

両方のランプが消え、ノーマルなキーに戻ったことを示します。

ノート:電源をいったんOFFにすることでも、ノーマルなキーに戻ります。



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

[トランスポジションの使用にあたって]

- トランスポジションのセットは、レジストレーションメモリーには記憶されません。曲の途中でキーを変えたい場合は、そのつど▼ボタンまたは▲ボタンを押してください。
- RAMパックには、現在セットしているトランスポジションのデータを移すことができます。
- ▼ボタンまたは▲ボタンを押した時、押したボタンのランプが常に点灯するとは限りません。その時セットされているキーがノーマルより下の場合は▼ボタンのランプが常に点灯し、ノーマルより上の場合は▲ボタンのランプが常に点灯します。したがって、▼ボタンを押しても▲ボタンのランプが点灯したままになる場合があります。
- C.S.P.でコード進行をプログラムしている時、途中からトランスポジションによってキーを変えても、実際にプログラムされるコードのキーは変わりません。ただし、C.S.P.の再生時に、トランスポジションでキーを変えることはできません。

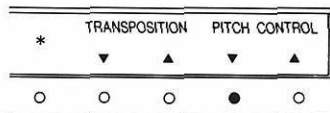
11-(6) ピッチコントロール

エレクトーン全体のピッチ(音程)を、微調整することができます。

1 ▼ボタンまたは▲ボタンを押して、ピッチを変える。

▼ボタン:1回押すたびに、音程が少しずつ下がります。(A=440Hzの時、1ステップ約0.3Hz、最高4ステップ)

▲ボタン:1回押すたびに、音程が少しずつ上がります。(A=440Hzの時、1ステップ約0.3Hz、最高15ステップ)

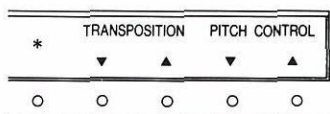


□ □ □ □ □ ■ □ □ □ □ □

2 ▼ボタンと▲ボタンを同時に押して、ノーマルなピッチに戻す。

両方のランプが消え、ノーマルなピッチに戻ったことを示します。

ノート:電源をいったんOFFにすることでも、ノーマルなピッチに戻ります。



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

[ピッチコントロールの使用にあたって]

- ピッチコントロールのセットは、レジストレーションメモリーには記憶されないようになっています。
- ▼ボタンまたは▲ボタンを押した時、押したボタンのランプが常に点灯するとは限りません。その時セットされているピッチがノーマルより下の場合は▼ボタンのランプが常に点灯し、ノーマルより上の場合は▲ボタンのランプが常に点灯します。したがって、▼ボタンを押しても▲ボタンのランプが点灯したままになる場合があります。

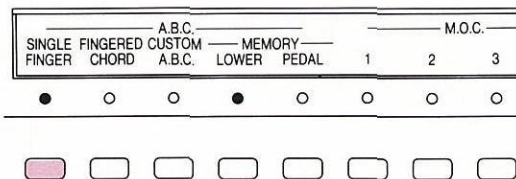


12-(1) A.B.C.(オートベースコード)

下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的に得られる機能で、3つのモード(弾き方)があります。

1 マルチメニューにあるA.B.C.のボタンでモードをひとつ選ぶ。

オートベースコードのモード(自動伴奏の弾き方)は、左端のボタンから3つ目までの3つのボタンで、選択するようになっています。



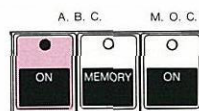
シングルフィンガー	下鍵盤をひとつ押さえるだけで、メジャーコードが検出され、コードとベースの自動伴奏が得られます。また、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードの自動伴奏もできます。(➡63ページ)
フィンガードコード	下鍵盤で押さえたコードが検出され、ベースの自動伴奏が得られます。
カスタムA.B.C.	下鍵盤で押さえたコードのタイプとペダル鍵盤で押さえた音が検出され、ベースの自動伴奏が得られます。

ノート: シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.の3つのボタンは、常にいずれかひとつがONになっています。

2 パネルのA.B.C. ONボタンを押して、点灯にする。

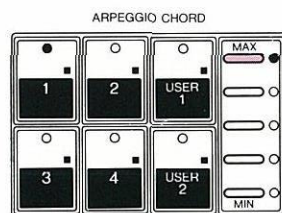
ONを点灯させている時: マルチメニューで選択したオートベースコードのモードで自動伴奏機能が働きます。

ONを消灯させている時: オートベースコードは動きません。



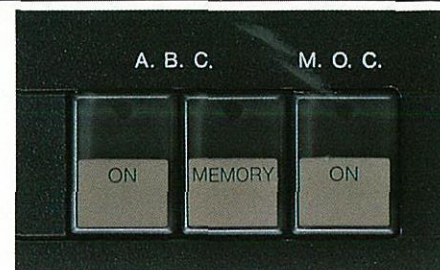
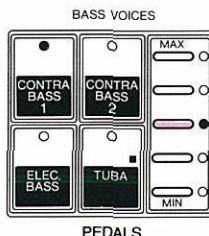
3 アルペジオコードをセット。

下鍵盤の伴奏を弾く音色として、リズムに連動するアルペジオコードをセットしましょう。また、必要に応じて、アルペジオコード以外の下鍵盤の音色もセットしてください。



4 ペダル鍵盤の音色をセット。

HS-8では、必要に応じて、AWMベースボイスをセットしてください。



[オートベースコードのベースパターンについて]

オートベースコードで自動的に発音するベース伴奏のパターンは、各リズムパターン(プリセット)に連動したベースパターンが得られます。

- アルペジオコード(プリセット)のパターンを変えると、ベースパターンもそれにふさわしいパターンに変わります。
- プリセットのフィルイン(フィルイン1、フィルイン2)またはエンディングを発音させている間は、ベースパターンも変化します。
- 下鍵盤で弾いたコードのタイプによってもベースパターンは変化します。
- リズムのユーザーパターン(ユーザー1、ユーザー2)またはアルペジオコードのユーザーパターン(ユーザー1、ユーザー2)をONにしている時のベースパターンは、その時ランプが点灯しているプリセットパターンに連動したベースパターンになります。
- ユーザーフィルインを発音させている間は、ベース音は発音しないようになっています。

[リズムを使わない場合]

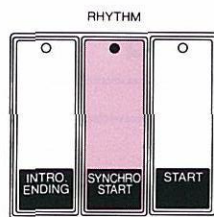
リズムをスタートさせなくても、自動伴奏機能を使うことができます。シングルフィンガーを選んでいる時は、コードとベース音が自動的に得られ、フィンガードコードを選んでいる時は、ベース音が自動的に得られます。ただし、リズムに連動して働くアルペジオコードは発音しません。また、ベース音はパターンがきざまれません。

[オートベースコードの使用にあたって]

シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.の選択データは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。

5 リズムセクションをセットする。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてから、シンクロスタートのスイッチをONにしておきましょう。リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができます、とても便利です。



6 選んだモードに応じて、伴奏を演奏する。

[シングルフィンガーを選んだ場合]

下鍵盤を次のように押さえることで、4つのタイプのコードが検出され、コードとベースの自動伴奏が得られます。

メジャーコード: コードの根音をひとつ押さえる。(右の例: C)



マイナーコード: コードの根音と、それより左側の黒鍵を同時に押さえる。(右の例: Cm)



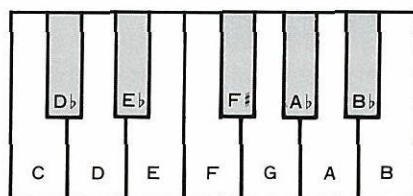
セブンスコード: コードの根音と、それより左側の白鍵を同時に押さえる。(右の例: C7)



マイナーセブンスコード: コードの根音と、それより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえる。(右の例: Cm7)



ノート: 下鍵盤とコードの根音の位置関係は右のようになります。



[フィンガードコードを選んだ場合]

下鍵盤でコードを押さえるだけで、そのコードにふさわしいベース伴奏が自動的に得られます。(右の「フィンガードコード、カスタムA.B.C.で検出されるコード」を参照)

[カスタムA.B.C.を選んだ場合]

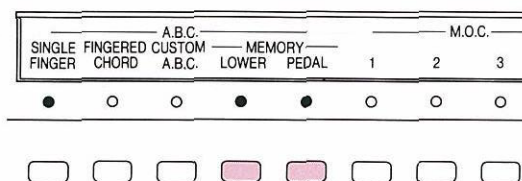
下鍵盤でコードを押さえ、ペダル鍵盤を1音押さえるだけで、ベース伴奏が自動的に得られます。ベース伴奏は、下鍵盤で押さえたコードのタイプとペダル鍵盤で押さえた音に基づいて検出されます。

メモリー

1 マルチメニューのメモリーボタンをONにする。

ロワー: このボタンをONにすると、下鍵盤から指を離した後も、下鍵盤の伴奏が鳴り続けます。

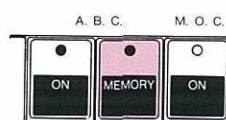
ペダル: このボタンをONにすると、下鍵盤から指を離した後も、ペダル鍵盤の伴奏が鳴り続けます。



ノート: カスタムA.B.C.を選び、メモリーのペダルボタンをONにした時は、ペダル鍵盤から足を離した後も、ベース伴奏が鳴り続けます。

2 パネルのメモリーボタンをONにして、下鍵盤を押さえ、すぐに指を離す。

下鍵盤から指を離した後も、コードとベースの自動伴奏が、リズムと一緒に鳴り続けます。コードを変える時だけ、下鍵盤を押さえ直してください。



[シングルフィンガー使用時の注意]

- シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域の鍵盤を押さえても、実際に発音する自動伴奏の音域は変わらないようになっています。
- 下鍵盤をレガートに弾くと、正しくコードが切り替わらない場合があります。コードを切り替える時は、いったん鍵盤から指を離すようにしてください。
- シングルフィンガーの使用時には、リードボイスを下鍵盤から発音させることはできません。

[フィンガードコード、カスタムA.B.C.で検出されるコード]

フィンガードコードまたはカスタムA.B.C.を使っている時は、次の15種類のコードタイプが検出され、そのコードに応じたベース伴奏が自動的に得られます。(すべてCを根音とするコードネームで表記)

C、Cm、C7、Cm7、Cmaj7、Cm maj7、Caug(+5)、Caug7(7+5)、Cdim、C7sus4、Cm7-5、C-5、C7-5、C6、Cm6

[メモリーの使用にあたって]

- メモリーはリズムに連動して機能するようになっています。必ず、リズムと一緒に使うようにしてください。
- メモリーは、オートベースコードをOFFにしている時でも、リズムさえスタートしていれば機能します。下鍵盤の伴奏を鳴らし続けている間に、左手でパネル操作をしたり、両手で上鍵盤を弾きたい時などに活用してください。
- シングルフィンガーまたはフィンガードコードの使用時に、メモリーによって自動伴奏を持続させたい場合は、ロワーボタンとペダルボタンを両方ともONにしてください。
- ロワーとペダルボタンのON/OFFデータは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。

12-(2) M.O.C.(メロディーオンコード)

上鍵盤で弾くメロディーに、ハーモニーを自動的に付けることができます。

1 マルチメニューのM.O.C.ボタンで、モードをひとつ選ぶ。

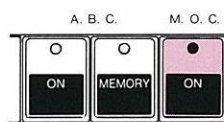
メロディーオンコードのモード(ハーモニーの付き方)は3つあり、そのうちのひとつを選択するようになっています。

MEMORY		M.O.C.			KNEE CONTROL		FLANGER
LOWER	PEDAL	1	2	3			
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

1	最大2音までのハーモニーが、メロディーに近い音域で発音します。
2	最大3音までのハーモニーが、メロディーに近い音域で発音します。
3	最大3音までのハーモニーが、メロディーからやや離れた音域で発音します。

ノート: 1、2、3のボタンは、常にひとつがONになっています。

2 パネルのM.O.C. ONボタンを押して、点灯にする。



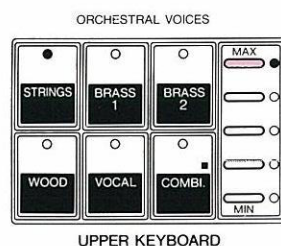
ONを点灯させている時: マルチメニューで選択したモードで、ハーモニーが自動的に付きます。

ONを消灯させている時: メロディーオンコードは機能しません。

3 上鍵盤の音色(リードボイス以外)をセット。

ハーモニーの音色として、上鍵盤のオーケストラルボイス、コンビネーションボイス(HS-8・HS-7・HS-6)、パーカッションボイス(HS-7・HS-6・HS-5)、AWMプリセット(HS-8)の音色を選び、ボリュームとアンサンブルのボタンをセットしてください。

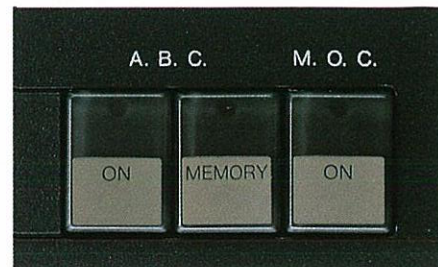
リードボイスは、ハーモニーの音としては得られませんが、メロディーラインを弾くための音色としてセットすることができます。また、下鍵盤の音色もセットしましょう。



(図はHS-5)

4 下鍵盤でコードを押さえながら、上鍵盤でメロディーを弾く。

上鍵盤で弾くメロディーの下に、ハーモニーが自動的に加わり、厚みのあるメロディー演奏が楽しめます。

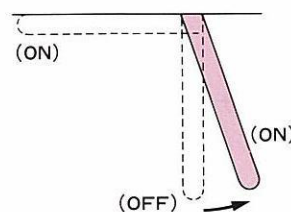


[ニーコントロール]

ORY PEDAL		M.O.C.			KNEE CONTROL		FLANGER
		1	2	3			
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

このボタンをONにすると、メロディーオンコードのON/OFFをニーレバーでコントロールできるようになります。演奏の途中で、部分的にメロディーオンコードを使いたい場合などに便利です。

ニーコントロールのボタンをONにし、下鍵盤の下にあるニーレバーを真下に立てると、メロディーオンコードは機能しない状態になります。メロディーオンコードをONにしたい時点で、ニーレバーを右に押してください。右に押している間だけメロディーオンコードが機能します。



[メロディーオンコードの使用にあたって]

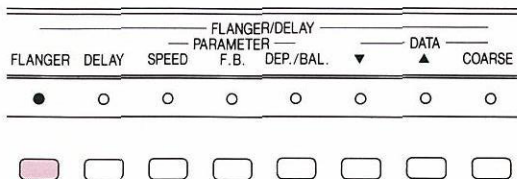
- 自動的に得られるハーモニーは、下鍵盤で発音させているコードの構成音のなかから検出され、上鍵盤の音色で発音するようになっています。ハーモニーを付けたい場合は、下鍵盤でコードを発音させながら、上鍵盤を弾いてください。
- A.B.C.のメモリーローターボタンをONにして、リズムをスタートさせている時は、下鍵盤から指を離した後も、メロディーにハーモニーが付きます。
- メロディーオンコードのモード選択データは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。

12-(3) フランジャー/ディレイ(HS-8・HS-7・HS-6・HS-5)

フランジャー効果とディレイ効果の選択を行うほか、それぞれのパラメーターのデータを変更することもできます。

基本的な使い方

1 マルチメニューで、効果を選ぶ。



フランジャーまたはディレイボタンのどちらかをONにして、効果を選んでください。(常にどちらかのボタンがONになっています。)

ノート: 各効果は、パラメーターのデータを変更することで、そのかかり具合を変えることもできます。必要に応じて、操作してください。(⇒66ページ)

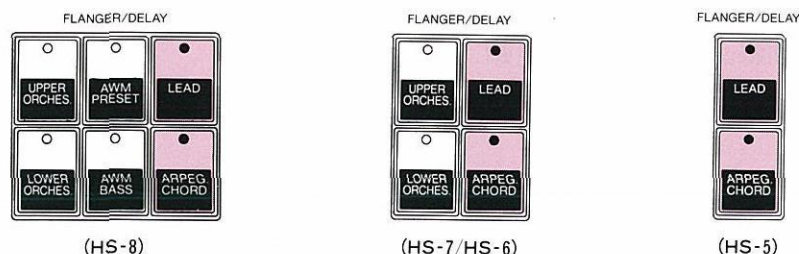
ノート: パラメーターのデータを変更する前は、ノーマルなデータ値がそれぞれプリセットされています。パラメーターのデータを変更した後、プリセットされているデータ値で効果をかけたい場合は、右に示した“プリセット状態に戻す操作”を行ってください。

2 効果をかける音色をセットする。

フランジャー効果またはディレイ効果をかけることができる音色群は次のとおりです。それぞれのボリュームとアンサンブルのボタンをセットしてください。

HS-8	上鍵盤オーケストラルボイス、AWMプリセット、リードボイス、下鍵盤オーケストラルボイス、AWMベースボイス、アルペジオコード
HS-7/HS-6	上鍵盤オーケストラルボイス、リードボイス、下鍵盤オーケストラルボイス、アルペジオコード
HS-5	リードボイス、アルペジオコード

3 パネルのフランジャー/ディレイセクションで、効果をかける音色群のボタンをONにする。

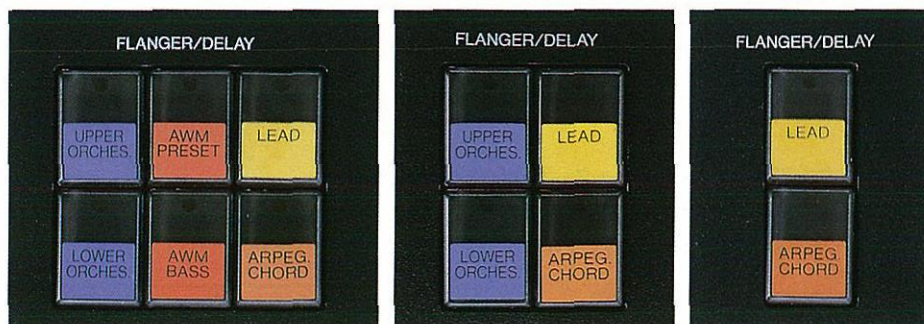


効果をかけたい音色群に対応するボタンをONにしてください。複数のボタンをONにすれば、複数の音色群に効果をかけることができます。

注意: 音色群ごとにフランジャーとディレイを別々にかけることはできません。

4 鍵盤を弾くと、選択した効果がかかる。

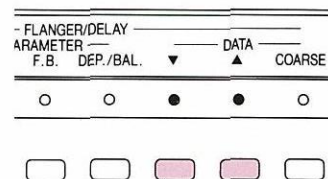
マルチメニューでフランジャーを選択したか、ディレイを選択したかというデータはエレクトーンに記憶されますから、パネルにあるフランジャー/ディレイセクションのボタンをONにすることで、いつでも選択した効果が得られます。



[プリセット状態に戻す操作]

フランジャー効果とディレイ効果は、プリセットされているパラメーターのデータを変更することができますが、データを変更した後、いつでもプリセットのデータ値に戻すことができます。次のように操作してください。

- ① マルチメニューのフランジャーまたはディレイボタンを押して、パラメーターの3つのボタンをすべて消灯にする。
- ② データの▼ボタンと▲ボタンを同時に押す。



①で押した効果の3つのパラメーターが、すべてプリセットされているデータ値に戻ります。プリセットされているデータ値は次のとおりです。

フランジャー	: スピード [4]
	フィードバック [67]
	デプス [85]
ディレイ	: スピード [0]
	フィードバック [61]
	バランス [50]

[フランジャー/ディレイのデータをメモリーする使い方]

パネルとマルチメニューでセットしたフランジャー/ディレイのON/OFFデータ、およびそれらのパラメーターデータ値は、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、いろいろなON/OFF状態やデータ値をメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、効果のON/OFFやかかり具合が切り替わり、とても便利です。(⇒18ページ)

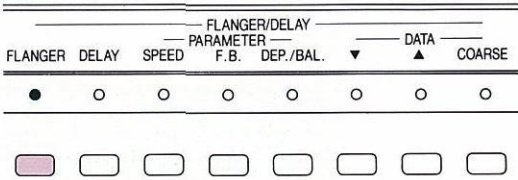
注意: フランジャーをONにしたレジストレーションとディレイをONにしたレジストレーションを別々の数字ボタンにメモリーし、それらを切り替えると、効果の切り替わるタイミングが少し遅れる場合があります。

[フランジャー/ディレイの使用にあたって]

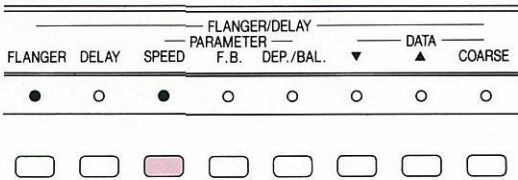
- パラメーターを同じデータ値にして効果をかけた場合でも、音色によって効果のかかり具合が異なって聞こえることがあります。
- フランジャー/ディレイ効果は、各音色群の付点ボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。
- マルチメニューで設定したフランジャー/ディレイのON/OFFデータ、パラメーターのデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

パラメーターのデータを変更する操作

1パラメーターを変更する効果のボタンを押す。
フランジャーまたはディレイボタンのどちらかを押してください。パラメーターデータの変更は、フランジャーとディレイで別々に行うことができます。

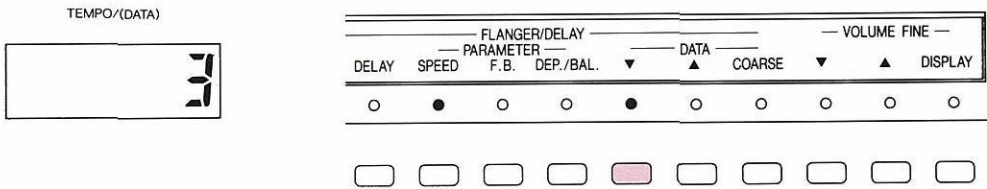


2データを変更するパラメーターのボタンをONにする。
フランジャー/ディレイで変更できるパラメーターは、それぞれ3つずつあります。スピードとフィードバックは共通項目、3つ目の項目は、フランジャーがデプス、ディレイがバランスになります。



効果	パラメーター	意味	可変幅
フランジャー	スピード	変調周波数	0～100
	フィードバック	帰還量	0～100
	デプス	変調の深さ	0～100
ディレイ	スピード	ディレイタイム	0～100
	フィードバック	帰還量	0～100
	バランス	直接音とディレイ音の比率	0～100

3データボタンで、データ値を変更する。



パラメーターのいずれかをONにすると、そのパラメーターに現在設定されているデータ値が、テンポディスプレイに表示されます。効果をかける音色を発音させながら、データボタン(▼・▲・コース)で、その数値を増減させてください。

▼	1回押すたびに、データ値がひとつずつ減ります。
▲	1回押すたびに、データ値がひとつずつ増えます。
コース	このボタンを押しながら、▼または▲ボタンを押すと、データ値が10ずつ増減します。大幅に数値を変更したい場合にお使いください。

4必要に応じて、ほかのパラメーターをONにし、データを変更する。
設定したデータ値は記憶されますから、パネルにあるフランジャー/ディレイのボタンをONにすることで、いつでも設定したデータ値で効果が得られます。

「各パラメーターのデータ変更による変化」
フランジャー/ディレイの各パラメーターデータを変更すると、効果のかかり具合は次のように変わります。

スピード	▲	短い周期で変調するようになる。
	▼	長い周期で変調するようになる。
フィードバック	▲	金属的な鋭さが増してくる。
	▼	金属的な鋭さがとれてくる。
デプス	▲	ビブラートの的な変調が目立つようになる。
	▼	ビブラートの的な変調が目立たなくなる。

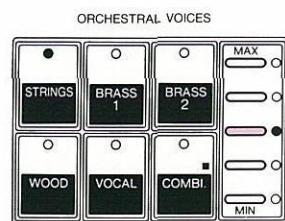
スピード	▲	ディレイ音が早く出てる。
	▼	ディレイ音がゆっくり出てる。
フィードバック	▲	ディレイ音が長くなる
	▼	ディレイ音が短くなる。
バランス	▲	ディレイ音が弾いた音より大きくなる。
	▼	ディレイ音が弾いた音より小さくなる。

12-(4) ボリュームファイン

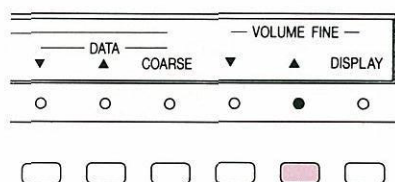
各セクション(音色群、アルペジオコード、リズム)の音量を細かくセットすることができます。

1 音量を細かく設定したいセクションのボリュームボタンを押す。

ボリュームボタンを押すことによって、ボリュームファインの操作を行うセクションが指定されます。各鍵盤の音色群、アルペジオコード、リズムのなかから、音量を細かく設定したいセクションをひとつ指定してください。



(図はHS-5)



2 ▼ボタンまたは▲ボタンを押す。

パネルのボリュームボタンは、HS-8が7つ、それ以外の機種が5つあります。ボリュームファイン機能では、あるボリュームボタンとそのひとつ上(または下)のボリュームボタンとの間に、3段階の音量を設定することができます。

▼ボタン: 1回押すたびに、1段階ずつ音量が下がり、4回押すとひとつ下のボリュームボタンの音量レベルになります。

▲ボタン: 1回押すたびに、1段階ずつ音量が上がり、4回押すとひとつ上のボリュームボタンの音量レベルになります。

ノート: ▲ボタンを押して、一番上のボリュームボタンより上に音量を上げることはできません。また、▼ボタンを押して、一番下のボリュームボタンより下に音量を下げることはできません。

ノート: 中間の音量に設定すると、パネルのボリュームボタンのランプが2つ点灯になります。(下表参照)

ノート: ▲▼ボタンのランプは、現在設定されている音量に応じて点灯し、中間の3段階のうち上側か中央か下側かを示します。(下表参照)

音 量	▼▲ボタンの操作	ボリュームのランプ	▼▲ボタンのランプ
上のボタンの音量	(▲×4)	ひとつ点灯	○ ○
中間の音量	上側 ▲×3	● ● 2つ点灯	○ ●
	中央 ▲×2		● ●
	下側 ▲×1		● ○
現在の音量	—	ひとつ点灯	○ ○
中間の音量	上側 ▼×1	○ ● 2つ点灯	○ ●
	中央 ▼×2		● ●
	下側 ▼×3		● ○
下のボタンの音量	(▼×4)	ひとつ点灯	○ ○

[ディスプレイボタンの働き]

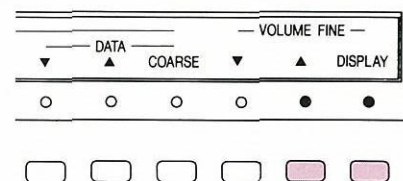
右端のディスプレイボタンには次の2つの働きがあります。

●このボタンを押すと、現在指定されているセクション(一番最後にボリュームボタンを押したセクション)のボリュームボタンが点滅し、音量の設定を行えるのかどのセクションであるかを示します。ボリュームボタンの点滅は、ディスプレイボタンを押さえている間続き、ボタンから指を離すと点灯に戻ります。

●次に説明する“音量の設定を連続で行う操作”では、このボタンを押しながら、▼または▲ボタンを押します。

[音量の設定を連続で行う操作]

ひとつのセクションの音量を設定した後、別のセクションの音量を連続して設定したい場合は、ディスプレイボタンを押しながら、▲ボタンまたは▼ボタンを押してください。音量を設定するセクションをパネルのボリュームボタンで指定し直さなくても、次々に音量を設定することができます。



ディスプレイ+▲: 1回操作するたびに、ボリュームボタンの点滅が左隣または下段のセクションに移動します。(上鍵盤の音色群→下鍵盤の音色群→上/下鍵盤の音色群→ペダル鍵盤の音色群→アルペジオコード→リズムの順に移動し、リズムの次は上鍵盤の音色群に戻ります。)

ディスプレイ+▼: 1回操作することにより、ボリュームボタンの点滅が右隣または上段のセクションに移動します。(リズム→アルペジオコード→ペダル鍵盤の音色群→上/下鍵盤の音色群→下鍵盤の音色群→上鍵盤の音色群の順に移動し、上鍵盤の音色群の次はリズムに戻ります。)

●あらかじめ各セクションのボリュームボタンによって、設定したい音量に一番近いボタンをONにしておくと、スムーズに連続設定ができます。

●上鍵盤のオーケストラボイスから設定を始め、“ディスプレイ+▲”の操作によって順番に設定していくと便利です。

[ボリュームファインのデータをメモリーする使い方]

ボリュームファインで設定した各セクションの音量データは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションメモリーの異なった数字ボタンに、いろいろな音量データをメモリーしてみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し替えるだけで、細かく音量が切り替わり、とても便利です。(➡18ページ)

[ボリュームファインの使用にあたって]

●▼ボタンまたは▲ボタンを押した時、押したボタンのランプが点灯するとは限りません。▼ボタンと▲ボタンのランプは、その時設定されている音量に応じて点灯または消灯します。したがって、▼ボタンを押した時、▲ボタンのランプが点灯する(その逆も)場合があります。

●ボリュームファインで設定した音量のデータは、電源をOFFにしてもバックアップされます。(バックアップ期間は最低1週間)

3 別のセクションを指定して、同様の操作で細かく設定する。

ボリュームボタンを押してセクションを指定し、上記と同様の操作を行ってください。また、右記の“音量の設定を連続で行う操作”も可能です。

付属端子

① HEADPHONES (ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使用すれば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなり、外部に音を出すことなく、エレクトーンの演奏をモニターすることができます。(ヘッドホン以外の機器を接続することは避けてください。)

② MIC. (マイク端子)

マイクロフォンを接続する端子です。

③ MIC. VOL. (マイクボリューム)

接続したマイクロフォンの音量を調節することができます。

④ SPEAKER OUT (スピーカーアウト端子)

エレクトーン本体のスピーカーに音声信号を出力するための端子で、HS-8・HS-7・HS-6ではステレオ出力、HS-5・HS-4ではモノラル出力になっています。スピーカーユニットから出ているプラグを接続してください。外部スピーカーを接続している時、エレクトーン本体の音を切って外部スピーカーだけから音を出したい場合は、これらの端子からプラグを抜いてください。

⑤ TO PEDAL (トゥーペダル端子)

ペダル鍵盤ユニットからでているケーブルのプラグを接続する端子で、各種信号を入/出力します。プラグの白い点と、端子の白い点の位置を合わせて、しっかりと接続してください。移動時などにプラグを抜く場合は、プラグの先端部を下方にスライドさせてから、引き抜いてください。

⑥ AUX. OUT (ライン出力端子)

キーボードアンプKAシリーズなどの外部スピーカーやミキサーなどに音声信号を出力する端子で、すべてのモデルでステレオ出力させることができます。HS-5・HS-4では、本体スピーカーへの出力はモノラルですが、外部機器への出力は2チャンネルに振り分けられステレオで出力されます。(出力インピーダンス:470Ω)
また、AUX. OUT端子に外部アンプ・スピーカーを接続している時、エレクトーンの電源だけをOFFにする場合は、エレクトーンのマスターボリュームまたはエクスプレッションペダルによって音量を小さくするか、外部アンプ・スピーカーのボリュームを小さくしてから、電源をOFFにしてください。

⑦ AUX. IN (ライン入力端子)

外部機器からの音声信号を入力する端子で、HS-8・HS-7・HS-6ではステレオ入力、HS-5・HS-4ではモノラル入力になっています。この端子で入力した音の音量は、接続している外部機器でコントロールしてください。

⑧ EXP. IN (エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムマシンなどの音声信号(モノラル)を入力するための端子です。この端子で入力した音の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルによって、本体の音量と一緒にコントロールすることができます。

⑨ RHYTHM OUT (リズム出力端子)[HS-8のみ]

エレクトーンの音声信号のうち、リズムの信号だけを、外部スピーカーやミキサーなどにステレオ出力させることができる端子です。この端子と⑩のAUX. OUT端子を同時に使用すれば、AUX. OUT端子からは、リズムの信号だけがキャンセルされた音声信号を出力させることができます。(出力インピーダンス:470Ω)

⑩ AUX. OUT (ライン出力端子)[HS-8のみ]

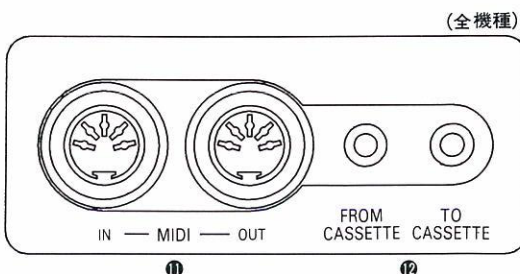
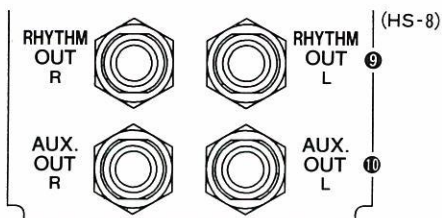
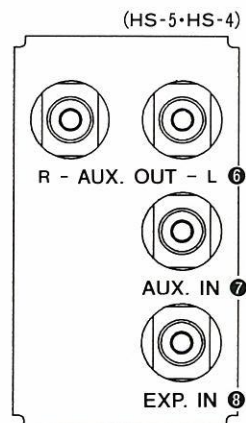
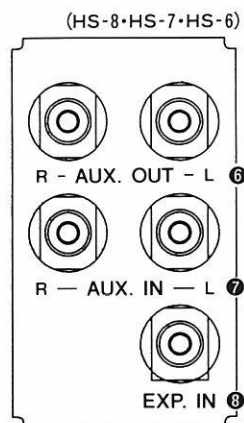
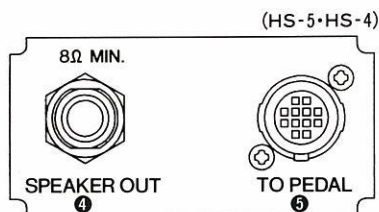
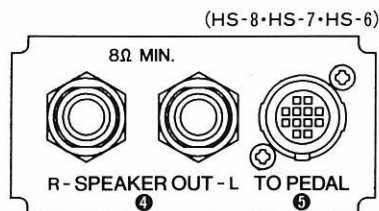
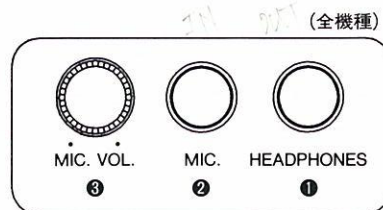
エレクトーンの音声信号を、外部スピーカーやミキサーなどにステレオ出力する端子(フォーン)です。この端子だけを使用すれば、エレクトーンのすべての音声信号を出力させることができます。また、⑨のRHYTHM OUT端子と同時に使用すれば、リズムの信号だけがキャンセルされて出力します。(出力インピーダンス:470Ω)

⑪ MIDI IN/OUT (MIDI入/出力端子)

MIDI規格に対応した外部機器と、各種情報をやりとりする時に接続する端子です。(➡69・76・77・81ページ)

⑫ FROM CASSETTE/TO CASSETTE (カセット入/出力端子)

エレクトーンの種類データをカセットテープに移す時や、カセットテープのデータをエレクトーンに戻す時に使う端子です。(➡21ページ)



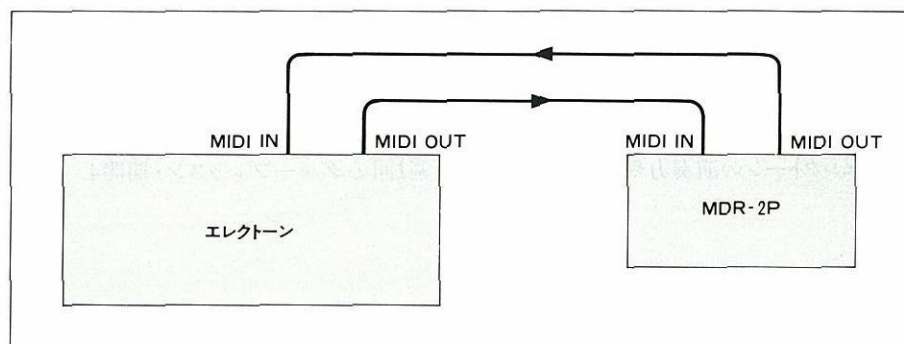
MIDI対応機器との接続例 (ミュージックディスクレコーダーMDR-2Pとの接続)

エレクトーンのMIDI機能は、特有のエクスクルーシブメッセージを送/受信できるようになっています。エレクトーン
のデータを正確に送/受信するためには、なるべくエレクトーン専用の周辺機器をお使いください。

MDR-2Pに演奏を録音し、再生する場合

ミュージックディスクレコーダーMDR-2Pなど、外部の記録装置を使用する場合は、右
図のように、INとOUTを相互に接続してください。

- MDR-2Pでは、演奏情報のほかに、レジストレーションメモリーなどの各種データも
記録/再現させることができます。
- MDR-2Pで録音/再生を行うと、エレクトーンのリズム同期モードが自動的に切り
替わりますから、モードを切り替える必要はありません。



エレクトーン教室のご案内

お子さまに正しい音楽教育をとお考えの方や、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいという方のために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。

●幼児科

4〜5歳児を対象にした音楽教室。「きく・うたう・ひく・つくる」という体験を通じて、音楽の基礎を楽しく自然に身につけます。母親同伴・週1回のグループレッスン・期間2ヵ年。

●エレクトーンスクール(児童科)

小学生を対象にしたエレクトーン教室です。音楽の導入に適したエレクトーンのレッスンを通じて、正しい音楽能力と豊かな創造力を養います。週1回のグループレッスン・期間4ヵ年。

●ジュニア科エレクトーンコース

幼児科を修了したお子さまを対象にしたコース。それまでに培われた音楽の基礎を土台に、エレクトーンの演奏力や表現力を学びます。週1回のグループレッスン・期間4ヵ年。

●メイトコース

中学生以上の方を対象にしたエレクトーン教室。はじめて鍵盤にふれる方でも、エレクトーンの演奏力と音楽力を楽しみながら身につけることができます。週1回のグループレッスン。

また、ピアノやエレクトーンの実験に応じて、スタディコース、マスターコースも選べます。

●ハーモニーパーク

音楽とエレクトーンを楽しみたい16歳以上の方を対象にしたメンバー制の音楽サロン。好きな時に、好きな曲でレッスンを受けることができるセミ・フリータイム制です。

●エレクトーンハウス

エレクトーンのレッスンやご購入など、お客さまのさまざまなご要望にお応えするエレクトーンの専門店。気軽にエレクトーンを弾いてみたい、教室に通うまえにエレクトーンを習ってみたいという方のために、チケット制フリータイムのインイシャルレッスン(個人レッスン)も実施しています。

エレクトーン出版物

ここに紹介した出版物のほかにも、さまざまな曲集が用意されています。くわしくはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャズ、ボサノバ、ニューミュージックなど、ジャンル別にポピュラー音楽を選びました。

●エレクトーンミュージック・ボックス

ポピュラーミュージックのジャンル別曲集シリーズです。上級者のレパートリー集としてご活用ください。

●エレクトーンジャズタイム

プレイヤー、アレンジヤーの個性を生かした新しいタイプのジャズシリーズです。

●エレクトーンニューラブサウンズ

映画音楽、スタンダードナンバー、ニューミュージック、ポップスなどから愛をテーマにした曲を選びました。

●エレクトーン5セレクションズ

トップアレンジヤーや人気プレイヤーが自由に腕をふるってアレンジしたハイセンスな曲集です。

●エレクトーンポップスコア

ポップ感覚あふれるナンバーを、若手プレイヤー、アレンジヤーが個性豊かにアレンジした曲集です。

●エレクトーンクラシック・シリーズ

楽聖といわれた人たちの名曲から親しみやすいセミクラシックナンバーまでバリエーションに富んだ選曲です。

●エレクトーンヒット50

ポケットサイズで1冊に50曲。メロディー譜にリズムパターン、ディスクメモをつけた曲集です。

●エレクトーンパーソナル・シリーズ

第一線で活躍するエレクトーンプレイヤーの魅力的な作品を集めた曲集です。

●エレクトーンプレイングノート

エレクトーンプレイヤーが日頃ステージで演奏しているレパートリーを演奏しやすいようにアレンジしました。

●エレクトーンファンファンファン

若手アレンジヤーがポップな感覚でエレクトーンの新しいイメージにチャレンジ。中級者向けの楽しい曲集です。

●エレクトーンサウンド・クリップ

エレクトーンの機能を生かしたポピュラーミュージックのジャンル別曲集です。

●エレクトーンアーティスト・ベストコレクション

ポピュラーミュージック界のビッグアーティストをクローズアップし、その代表曲を紹介する曲集です。

●エレクトーンABCシリーズ

シングルフィンガープレイを中心に編集された曲集で、初心者でも手軽にエレクトーンプレイが楽しめます。

●レッツプレイエレクトーン

エレクトーンを始めたばかりの方に、弾く楽しさを早く知っていただくための、やさしくアレンジされた曲集です。

●エレクトーンレパートリー

グレードにあわせて、ポピュラーな曲、親しみのあるメロディーを中心に選曲しました。

●エレクトーンニューミュージック・コレクション

人気の高いニューミュージックアーティストの代表曲を集めた曲集です。

●エレクトーンアレンジ・コレクション

ソロ演奏、弾きうたい、アンサンブル等いろいろな楽しみ方ができる歌謡曲とニューミュージックのシリーズです。

●エレクトーン・アルバム

ジャンル別に編集されたエレクトーン曲集。スタディコース、マスターコースの副教材としてもご活用ください。

●エレクトーンメロディー・パレット

ニューミュージック、歌謡曲のヒットソングを集めた初心者向けのシンプルな隔月刊曲集です。

●エレクトーンメロディー・パレットスペシャル

人気歌手のヒットソングを弾きやすいようにアレンジした歌謡曲集です。

●エレクトーン名曲アルバム

クラシックの名曲を各グレード別にアレンジ編集した曲集です。

●こどものエレクトーンメイトフォリオ

演奏技術を数多く実践するための曲集です。

●エレクトーンメイトフォリオ

初心者向けレパートリー曲集です。

●こどものエレクトーン・レパートリー

こどもの親しみやすいポップな曲を中心に選曲し、編曲したグレード範例曲集です。

●エレクトーンリトルミュージシャン

楽しく親しみやすいこども用曲集で、マスターしてほしいテクニック等を考慮して編曲しています。

●エレクトーンラブラリー・コレクション

こども、またはエレクトーン初心者を対象としたジャンル別の曲集です。

●よい子のエレクトーン

エレクトーン演奏をはじめとして、音楽の基礎知識を身につけるためのこども用学習書です。

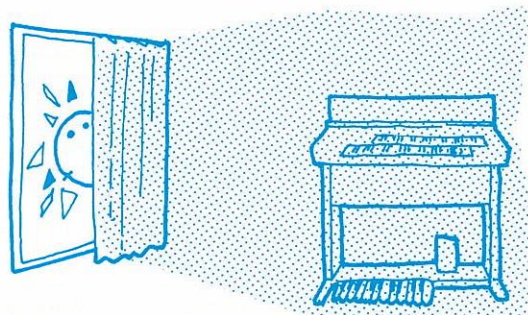
●エレクトーンで弾く作曲者シリーズ

クラシックの名曲を作曲家別にまとめた曲集です。

末永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水でうすめた台所用中性洗剤にひたした布をよく絞って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどをご使用にならないでください。

電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子・譜面板などの取扱いでは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

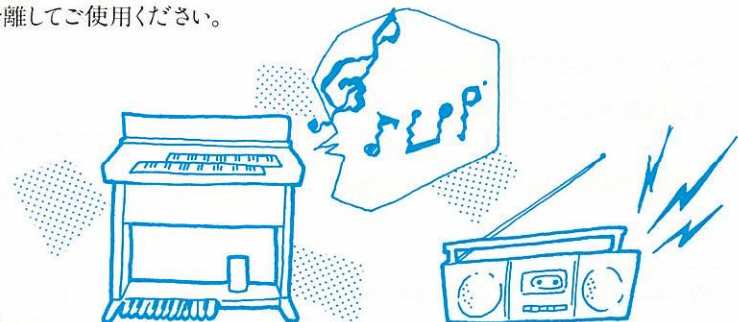
セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

外部アンプ機器等を接続する場合、68ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

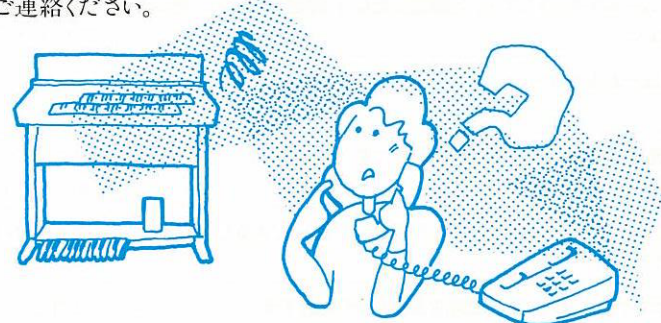


落雷に対する注意

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおい煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

RAMパックの取り扱いと保管について

RAMパックには、LSIなどの電子部品が使用されていますので、その取り扱いや保管では次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差し込み口の金属部を堅いものでこすったりして、キズをつけないようにしてください。
- 内部に水やホコリが入らないように注意してください。
- 保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。
- 持ち運ぶ際は、パックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用のケースをお使いください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所へは充分な配慮をしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適切な音量を心がけるとともに、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのほひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

故障だとお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けま
すので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音がある。	主に管楽器の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。プラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそえた楽音が得られます。
エレクトーンのスピーカーから音が出てこない。	スピーカーユニットから出ているケーブルのプラグがはずれています。別紙の「組み立て説明書」を参照の上、しっかりと接続してください。
ボリュームを最大にセットしても、音が小さすぎる。	①マスターボリュームが最小近くにセットされています。時計回りに回してください。②エクスプレッションペダルが踏み込まれていません。つま先で踏み込んでください。
上鍵盤または下鍵盤を同時に8音押さえても、7音しか発音しない。	上鍵盤または下鍵盤では、最大7音まで同時に発音するようになっています。(➡4・6・8・10ページ)
ボリュームをセットしても、上鍵盤または下鍵盤の音色が発音しない。	アンサンブルセクションのボタンがONになっていません。発音させたい音色群に対応するボタンをONにしてください。(➡5・7・9ページ)
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音しない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードがセットされています。パネルのA.B.C.ボタンをOFFにしてください。(➡62ページ)
上鍵盤の音量が下鍵盤の音量に較べて大きすぎる。(またはその逆)	マニュアルバランスのセットがUPPER側またはLOWER側に寄りすぎています。通常の演奏では、中央付近にセットしてください。(➡5・7・9・10ページ)
同じボリュームにセットしているのに、音色を変えると音量が変わる	選んだ音色によっては、ほかの音色に較べて音量が小さく聞こえるものがあります。各音色群のボリュームボタンで調整してください。
表示されている音色とは異なる音色が発音する。	点灯している付点ボタンに、ボイスメニューの音色が移されています。ボイスメニュー3の面の右端にあるオリジナルボイスのボタンを押しながら、付点ボタンを押し、ボイスメニューの音色を解除してください。(➡24ページ)
パネルのサステイン、ユーザービブラート、フランジャー/ディレイのボタンをONにしても各効果がかけられない。または効果がかけかりすぎる。	マルチメニューでの各効果のセッティングが不適切です。該当するマルチメニューの面を出し、各効果のセッティングを変更してください。(➡55・56・66ページ)
タッチコントロールが効かない。	マルチメニューでタッチトーンがOFFになっています。タッチトーンのアッパー&ローワーボタンをONにしてください。なお、HS-7・HS-6・HS-5・HS-4では、ペダル(MIDI)ボタンをONにしても、本体のペダル鍵盤ではタッチコントロールが効かないようになっています。(➡57ページ)
パネルに表示されているリズムとは異なるリズムパターンが発音する。	①点灯している付点ボタンに、リズムメニューのパターンが移されています。リズムメニューの右端にあるオリジナルパターンを押しながら、付点ボタンを押し、リズムメニューのパターンを解除してください。(➡32ページ)②ユーザーボタンがONになっています。ユーザーパターンを使用しない場合は、ユーザー1、ユーザー2のボタンをOFFにしてください。(➡12・38ページ)
ボリュームをセットしても、アルペジオコードの音が発音しない。	リズムがスタートしていません。アルペジオコードはリズムと一緒に使用してください。(➡14ページ)
リズムパターンとアルペジオコードのパターンが連動しない。または、リズムパターンとフィルイン、イントロ/エンディングのパターンが連動しない。	リズムのユーザーボタンまたはアルペジオコードのユーザーボタンがONになっています。ユーザーパターンとプリセットパターンは連動するようになっていませんから、同時に使用したい場合は、プリセットパターンに連動するようにユーザーパターンを作成してください。(➡38・41ページ)
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえるとリズム楽器の音が一緒に発音する。	キーボードパーカッションのボタンがONになっています。キーボードパーカッションを使用しない時は、OFFにしてください。(➡15ページ)
レジストレーションメモリーに記憶されない機能がある。	C.S.P./R.S.P.、F.M.P.、トランスポジション、などのデータは記憶されません。これらのデータはRAMバックに移してください。(➡18ページ)
トゥーパックの操作をしたら、エラーランプが点灯して、データが移らない。	操作が不適切であるか、RAMパックのメモリープロテクトスイッチがONになっています。操作方法などを確認してください。(➡20ページ)
カセットテープにデータが移らない。またはカセットテープからエレクトーンにデータが移らない。	操作や接続が不適切であるか、使用しているカセットテープやカセットレコーダーに不良があります。操作方法やカセットテープ、カセットレコーダーなどを確認してください。(➡21ページ)

現 象	原 因 と 処 置
オートベースコードのベースパターンが、リズムまたはアルペジオコードのパターンと連動しない。	リズムのユーザーボタンまたはアルペジオコードのユーザーボタンがONになっています。オートベースコードのベースパターンは、その時点灯しているプリセットのリズムパターンとアルペジオコードパターンに連動します。(➡62ページ)
パネルのA.B.C.メモリーボタンをONにしても、下鍵盤またはペダル鍵盤の音がホールドされない。	マルチメニューのA.B.C.セクションで、ローまたはペダルボタンがOFFになっています。下鍵盤とペダル鍵盤の音を両方ともホールドさせたい場合は、両方のボタンをONにしてください。(➡63ページ)
メロディーオンコードによるハーモニーの音が発音しない。	上鍵盤でリードボイスだけが発音するようになっています。リードボイス以外の音色も発音するようにセットしてください。(➡64ページ)
ボイスエディットを行っている時、鍵盤を押さえても指定した音色が発音しない。	指定した音色が発音しないようなセッティングになっています。指定した音色のボリュームと、その音色群に対応するアンサンブルのボタンをONにしてください。(➡26ページ)
ボイスエディットで、キャリアのエンベロープジェネレーターを変更したら、音色の変化するタイミングがずれてしまう。	モジュレーターのエンベロープジェネレーターを変更していないため、時間的に変化するタイミングが音量と音色でずれています。モジュレーターのエンベロープジェネレーターのデータを変更してください。(➡28ページ)
フロムFMボイスバックのボタンを押しても、FMボイスバックの音色が呼び出されない。	ボイスエディットのモードに入っていません。FMボイスバックの音色を呼び出す時は、まず、パネルの音色のいずれかを指定して、エディットモードに入ってください。(➡31ページ)
R.P.P.のリアルタイム入力を行っている時、下鍵盤を叩いてもパターンが入力されない。	すでに、8つの打楽器のパターンが入力されています。すでに入力されている打楽器音でパターンを追加するか、または、パターンを入力する前に、不要な打楽器のパターンを消去してください。(➡36・37ページ)
R.P.P.のステップ入力で、アクセントのボタンを押してもパターンが入力されない。	入力する打楽器が指定されていません。パターンを入力する前に、下鍵盤をひとつ押さえて、入力する打楽器を指定してください。(➡36・37ページ)
R.P.P.、R.C.P.で入力したパターンの登録ができない。	①登録する操作を間違えています。レジストレーションメモリーの数字ボタンを先に押さえ、ユーザーボタンを押してください。 ②登録する前に、入力したパターンが消去されました。パターンを登録するまでは、R.P.P.ボタンをOFFにしたり、マルチメニューを別の面に回したりしないでください。(➡38ページ)
C.S.P.、R.S.P.のレコードモードまたはエディットモードに入ることができない。	パネルにあるC.S.P./R.S.P.セクションのボタンがONになっています。レコードモードまたはエディットモードに入る時は、C.S.P./R.S.P.セクションのボタンをすべてOFFにしてください。(➡44・48ページ)
C.S.P.、R.S.P.のレコード時に、信号音が鳴って、入力できなくなる。	メモリー残量が無くなりました。いったんレコードを終了させ、別の数字ボタンに、その続きをプログラムしてください。(➡42・46ページ)
C.S.P.にレコードしたレジストレーションが再生されない。	レジストレーションメモリーに記憶されている内容が、レコード時と再生時で異なっています。レジストレーションメモリーの内容は、C.S.P.に記録されませんので、プログラム終了後に、レジストレーションメモリーのデータをRAMパックに移してください。(➡42ページ)
R.S.P.にレコードしたリズムのユーザーパターンが再生されない。	登録されているユーザーパターンが、レコード時と再生時で異なっています。ユーザーパターンの内容は、R.S.P.に記憶されませんので、プログラム終了後に、ユーザーパターンのデータをRAMパックに移してください。(➡46ページ)
R.S.P.を再生したら、レジストレーションが勝手に切り替わってしまう。	同じ数字ボタンにプログラムしたレジストレーションのデータが再現されています。C.S.P.のデータだけを消去してください。(➡42・46ページ)
リズムをスタートさせたら、レジストレーションが勝手に切り替わってしまう。	パネルにあるC.S.P./R.S.P.セクションの数字ボタンがONになっています。通常の演奏時には、数字ボタンをすべてOFFにしてください。(➡44ページ)
C.S.P.、R.S.P.のエディット時に、データを挿入したら、挿入したい位置よりも前に入ってしまう。	インサートボタンを押す時のデータ位置を間違えています。データ位置を、挿入したい位置の次に移動して、インサートボタンを押してください。(➡45・49ページ)
F.M.P.のレコードモードに入ることができない。	パネルにあるC.S.P./R.S.P.セクションのボタンがONになっています。F.M.P.のレコードモードに入る時は、C.S.P./R.S.P.セクションのボタンをすべてOFFにしてください。(➡44・48ページ)
F.M.P.にレコードしたレジストレーションが再生されない。	①レジストレーションメモリーに記憶されている内容が、レコード時と再生時で異なっています。レジストレーションメモリーの内容は、F.M.P.に記録されませんので、プログラム終了後に、データをRAMパックに移してください。②録音開始前にパネルでセットしたレジストレーションがレジストレーションメモリーに記憶されていません。録音を開始する時のレジストレーションは必ずレジストレーションメモリーに記憶させてください。(➡50ページ)
F.M.P.の再生中に、メロディーや伴奏などが途中で終わってしまう。	録音した演奏がメモリー容量を超えています。録音時にメモリー残量が無くなった場合は、レコードセクションのランプが消灯します。(➡50ページ)
RAMパックにF.M.P.のデータが移らない。	①録音したF.M.P.のデータ量が、RAMパックのメモリー容量を超えています。②レジストレーションのトラックに記録したデータは、RAMパックRP-3には移らないようになっています。F.M.P.のデータをフルに保存したい場合は、カセットテープまたはRAMパックRP-5をご使用ください。(➡54ページ)
各機能が正常に働かない。または、エレクトーンに記憶させていたデータがこわれてしまう。	エレクトーンに異常電圧が流れました。非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れると、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていたデータが変わってしまうことがあります。このような場合は、いったん電源スイッチをOFFにして、マルチメニューの一番左端のボタンを押しながら、電源スイッチをONにしてください。

		HS-8	HS-7	HS-6	HS-5	HS-4
鍵盤	上鍵盤	49鍵 C-c4 (4オクターブ)	49鍵 C-c4 (4オクターブ)	49鍵 C-c4 (4オクターブ)	49鍵 C-c4 (4オクターブ)	49鍵 C-c4 (4オクターブ)
	下鍵盤	49鍵 C-c3 (4オクターブ)	49鍵 C-c3 (4オクターブ)	49鍵 C-c3 (4オクターブ)	49鍵 C-c3 (4オクターブ)	49鍵 C-c3 (4オクターブ)
	ペダル鍵盤	20鍵 C-g (1 1/2オクターブ)	20鍵 C-g (1 1/2オクターブ)	20鍵 C-g (1 1/2オクターブ)	20鍵 C-g (1 1/2オクターブ)	20鍵 C-g (1 1/2オクターブ)
タッチ レスポンス	イニシャルタッチ	上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤
	アフタータッチ	上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤	上鍵盤、下鍵盤
パネル音色	アッパー オーケストラルボイス	ストリングス、プラス、ウッド、 ボーカル、ボリューム	ストリングス、プラス、ウッド、 ボーカル、ボリューム	ストリングス、プラス、ウッド、 ボーカル、ボリューム	ストリングス、プラス1、プラス2、 ウッド、ボーカル、コンビ、ボリューム	ストリングス、プラス1、プラス2、 ウッド、コンビ1、コンビ2、ボリューム
	アッパー コンビネーションボイス	1、2、3、4、ボリューム	1、2、3、4、ボリューム	1、2、3、4、ボリューム	—	—
	リードボイス	フルート、オーボエ、トランペット、 トロンボーン、ボリューム	フルート、オーボエ、トランペット、 トロンボーン、ボリューム	フルート、オーボエ、トランペット、 トロンボーン、ボリューム	フルート、オーボエ、トランペット、 トロンボーン、ボリューム	フルート、オーボエ、トランペット、 トロンボーン、ボリューム
	AWMプリセット	ピアノ、ストリングス、 パイプオルガン(ボイスバック1)、 プラス(ボイスバック2)、ボリューム	—	—	—	—
	パーカッションボイス	—	ピアノ、ビブラフォン、 ジャズギター、ギター、 ボリューム	ピアノ、ビブラフォン、 ジャズギター、ギター、 ボリューム	ピアノ、ビブラフォン、 ジャズギター、ギター、 ボリューム	—
	ロワー オーケストラルボイス	ストリングス、プラス1、 プラス2、ボーカル、ボリューム	ストリングス、プラス1、 プラス2、ボーカル、ボリューム	ストリングス、プラス1、プラス2、 ボーカル、コンビ1、コンビ2、ボリューム	ストリングス、プラス1、プラス2、 ボーカル、コンビ1、コンビ2、ボリューム	ストリングス、プラス1、プラス2、 ピアノ、コンビ1、コンビ2、ボリューム
	ロワー コンビネーションボイス	1、2、3、4、ボリューム	1、2、3、4、ボリューム	—	—	—
	AWMベースボイス	ウッドベース、 ストリングベース(ボイスバック)、 ボリューム	—	—	—	—
	ベースボイス	コントラバス1、コントラバス2、 エレクトリックベース、チューバ、 ボリューム	コントラバス1、コントラバス2、 エレクトリックベース、チューバ、 ボリューム	コントラバス1、コントラバス2、 エレクトリックベース、チューバ、 ボリューム	コントラバス1、コントラバス2、 エレクトリックベース、チューバ、 ボリューム	コントラバス1、コントラバス2、 エレクトリックベース、チューバ、 ボリューム
	アンサンブル アッパー	コンビネーション、 オーケストラル、 AWMプリセット、リード	コンビネーション、 オーケストラル、 パーカッション、リード	コンビネーション、 オーケストラル、 パーカッション、リード	オーケストラル、 パーカッション、 リード	リード
リズム	ロワー	コンビネーション、 オーケストラル、 AWMプリセット、リード	コンビネーション、 オーケストラル、 パーカッション、リード	オーケストラル パーカッション、 リード	オーケストラル、 パーカッション、 リード	リード
	パターンセクター	マーチ、タンゴ、ワルツ、 バラード、スイング、ボサノバ、 サンバ、ラテン、ラテンロック、 スローロック、バウンス、 8ビート、ディスコ、16ビート、 ユーザー1、ユーザー2	マーチ、タンゴ、ワルツ、 バラード、スイング、ボサノバ、 サンバ、ラテン、ラテンロック、 スローロック、バウンス、 8ビート、ディスコ、16ビート、 ユーザー1、ユーザー2	マーチ、タンゴ、ワルツ、 バラード、スイング、ボサノバ、 サンバ、ラテン、ラテンロック、 スローロック、バウンス、 8ビート、ディスコ、16ビート、 ユーザー1、ユーザー2	マーチ、タンゴ、ワルツ、 バラード、スイング、ボサノバ、 サンバ、ラテン、ラテンロック、 スローロック、バウンス、 8ビート、ディスコ、16ビート、 ユーザー1、ユーザー2	マーチ、タンゴ、ワルツ、 バラード、スイング、ボサノバ、 サンバ、ラテン、ラテンロック、 スローロック、バウンス、 8ビート、ディスコ、16ビート、 ユーザー1、ユーザー2
	コントロール	ボリューム、バランス、 テンポコントローラー、 テンポ(データ)ディスプレイ、 テンポランプ、スタート、 シンクロスタート、 イントロ/エンディング、 フィルイン1、フィルイン2、 ユーザーフィルイン	ボリューム、バランス、 テンポコントローラー、 テンポ(データ)ディスプレイ、 テンポランプ、スタート、 シンクロスタート、 イントロ/エンディング、 フィルイン1、フィルイン2、 ユーザーフィルイン	ボリューム、バランス、 テンポコントローラー、 テンポ(データ)ディスプレイ、 テンポランプ、スタート、 シンクロスタート、 イントロ/エンディング、 フィルイン1、フィルイン2、 ユーザーフィルイン	ボリューム、バランス、 テンポコントローラー、 テンポ(データ)ディスプレイ、 テンポランプ、スタート、 シンクロスタート、 イントロ/エンディング、 フィルイン1、フィルイン2、 ユーザーフィルイン	ボリューム、 テンポコントローラー、 テンポ(データ)ディスプレイ、 テンポランプ、スタート、 シンクロスタート、 イントロ/エンディング、 フィルイン1、フィルイン2、 ユーザーフィルイン
アルペジオコード		1、2、3、4、ユーザー1、ユーザー2、 ボリューム	1、2、3、4、ユーザー1、ユーザー2、 ボリューム	1、2、3、4、ユーザー1、ユーザー2、 ボリューム	1、2、3、4、ユーザー1、ユーザー2、 ボリューム	1、2、3、4、ユーザー1、ユーザー2、 ボリューム
キーボードパーカッション		ロワー、ペダル	ロワー、ペダル	ロワー、ペダル	ロワー、ペダル	ロワー、ペダル
効果・ コントロール	サステイン	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、 ペダル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、 ペダル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、 ペダル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、 ペダル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、 ペダル
	ユーザービブラート	アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル、リード	アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル、リード	アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル、リード	アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル、リード	アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル、リード
	リバーブ	○(デジタル)	○	○	○	○
	トレモロ	コーラス、トレモロ、 アッパーコンビネーション、 ロワーコンビネーション	コーラス、トレモロ、 アッパーコンビネーション、 ロワーコンビネーション	コーラス、トレモロ、 アッパーコンビネーション、 ロワーオーケストラル	コーラス、トレモロ、 セレステ、シンフォニック、 アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル	コーラス、トレモロ、セレステ、 シンフォニック、 アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル
	シンフォニック	セレステ、シンフォニック、 アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル	セレステ、シンフォニック、 アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル	セレステ、シンフォニック、 アッパーオーケストラル、 ロワーオーケストラル	—	—
	フランジャー/ディレイ	アッパーオーケストラル、 AWMプリセット、リード、 ロワーオーケストラル、 AWMベース、 アルペジオコード	アッパーオーケストラル、 リード、 ロワーオーケストラル、 アルペジオコード	アッパーオーケストラル、 リード、 ロワーオーケストラル、 アルペジオコード	リード、 アルペジオコード	—
	ピッチ	ナロー、ホイール	—	—	—	—
	モジュレーション	ON、ホイール	—	—	—	—
	マニュアルバランス	○	○	○	○	○

	HS-8	HS-7	HS-6	HS-5	HS-4
オートベースコード	ON、メモリー	ON、メモリー	ON、メモリー	ON、メモリー	ON、メモリー
メロディーオンコード	ON	ON	ON	ON	ON
レジストレーションメモリー	メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、	メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8	メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8	メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8	メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8
バック	コンファーム、トゥーバック、フロムバック、レディランプ、エラーランプ	コンファーム、トゥーバック、フロムバック、レディランプ、エラーランプ	コンファーム、トゥーバック、フロムバック、レディランプ、エラーランプ	コンファーム、トゥーバック、フロムバック、レディランプ、エラーランプ	コンファーム、トゥーバック、フロムバック、レディランプ、エラーランプ
AWMボイスバック	3	—	—	—	—
C.S.P./R.S.P.	1、2、3、4、C.S.P.プレイ、R.S.P.プレイ	1、2、3、4、C.S.P.プレイ、R.S.P.プレイ	1、2、3、4、C.S.P.プレイ、R.S.P.プレイ	1、2、3、4、C.S.P.プレイ、R.S.P.プレイ	1、2、3、4、C.S.P.プレイ、R.S.P.プレイ
F.M.P.	スタート	スタート	スタート	スタート	スタート
マルチメニュー	1 レジストレーションメニュー 2 ボイスメニュー-1 3 ボイスメニュー-2 4 ボイスメニュー-3 5 ボイスエディット 6 リズムメニュー 7 R.P.P./R.C.P. 8 C.S.P./R.S.P. 9 F.M.P. 10 11 12				
メインコントロール	マスターボリューム、パワー、ニールバー、フットスイッチレフト、フットスイッチライト、ガイドディスプレイ、エクスペッションペダル、セカンドエクスペッションペダル(オプション)、マイクボリューム	マスターボリューム、パワー、ニールバー、フットスイッチレフト、エクスペッションペダル、マイクボリューム	マスターボリューム、パワー、ニールバー、フットスイッチレフト、エクスペッションペダル、マイクボリューム	マスターボリューム、パワー、ニールバー、フットスイッチレフト、エクスペッションペダル、マイクボリューム	マスターボリューム、パワー、ニールバー、フットスイッチレフト、エクスペッションペダル、マイクボリューム
付属端子・ソケット	ヘッドホン、マイク、スピーカーアウトL・R、トゥーペダル、リズムアウトL・R(フォーン)、オックスアウトL・R(フォーン)、オックスアウトL・R、オックスインL・R、エクスペッションイン、MIDIイン・アウト、フロムカセット・トゥーカセット、ACインレット	ヘッドホン、マイク、スピーカーアウトL・R、トゥーペダル、オックスアウトL・R、オックスインL・R、エクスペッションイン、MIDIイン・アウト、フロムカセット・トゥーカセット、ACインレット	ヘッドホン、マイク、スピーカーアウトL・R、トゥーペダル、オックスアウトL・R、オックスインL・R、エクスペッションイン、MIDIイン・アウト、フロムカセット・トゥーカセット、ACインレット	ヘッドホン、マイク、スピーカーアウトL・R、トゥーペダル、オックスアウトL・R、オックスイン、エクスペッションイン、MIDIイン・アウト、フロムカセット・トゥーカセット、ACインレット	ヘッドホン、マイク、スピーカーアウトL・R、トゥーペダル、オックスアウトL・R、オックスイン、エクスペッションイン、MIDIイン・アウト、フロムカセット・トゥーカセット、ACインレット
アンプ	30W+30W	30W+30W	30W+30W	30W	30W
スピーカー	20cm×2、5cm×2	20cm×2、5cm×2	20cm×2、5cm×2	20cm×1、5cm×1	20cm×1、5cm×1
定格電圧・消費電力・周波数	100V・85W・50/60Hz	100V・85W・50/60Hz	100V・85W・50/60Hz	100V・50W・50/60Hz	100V・50W・50/60Hz
寸法/重量	本体 間口 109.7cm 奥行 52.0cm 高さ 99.3cm(譜面板を立てた時120.5cm) 重量 79.5kg 椅子 間口 66.5cm 奥行 29.7cm 高さ 56.2cm 重量 6.5kg	109.7cm 52.0cm 99.3cm(譜面板を立てた時120.5cm) 74.5kg 66.5cm 29.7cm 56.2cm 6.5kg	109.7cm 52.0cm 99.3cm(譜面板を立てた時120.5cm) 74.5kg 66.5cm 29.7cm 56.2cm 6.5kg	109.7cm 52.0cm 99.3cm(譜面板を立てた時120.5cm) 72.5kg 66.5cm 29.7cm 56.2cm 6.5kg	109.7cm 52.0cm 99.3cm(譜面板を立てた時120.5cm) 72.5kg 66.5cm 29.7cm 56.2cm 6.5kg
付属品	RAMバック(RP-3)	RAMバック(RP-3)	RAMバック(RP-3)	RAMバック(RP-3)	RAMバック(RP-3)

①外部機器をリモートコントロールする信号の送信

右記の操作を行うと、接続している外部機器をリモートコントロールするための信号（ヤマハエレクトーン共通のエクスクルーシブメッセージの一種）を送信することができます。送信される信号のコードは、次のとおりです。（⇒78ページ）

- ディレイ (ON) : F0H、43H、70H、70H、72H、00H、7FH、F7H
(OFF) : F0H、43H、70H、70H、72H、00H、00H、F7H
- デブス (ON) : F0H、43H、70H、70H、72H、01H、7FH、F7H
(OFF) : F0H、43H、70H、70H、72H、01H、00H、F7H
- スピード (ON) : F0H、43H、70H、70H、72H、02H、7FH、F7H
(OFF) : F0H、43H、70H、70H、72H、02H、00H、F7H

②F.M.P.のデータを送信しない状態への切り替え

MDR-2Pなどに演奏を録音する際、右記の操作を行うと、F.M.P.のデータだけは送信しない状態になります。F.M.P.には大量のデータがメモリーされるため、MDR-2Pなどでレコードを開始した時、F.M.P.のデータを記録するための時間が約40秒以上かかります。F.M.P.のデータを記録せずに、すぐに録音を始めたい場合は、この操作を行ってください。なお、もう一度同じ操作を行うか、電源をOFFにすれば、F.M.P.のデータを送信する状態に戻ります。

③リズム同期モードの切り替え

右記の操作を行うと、エレクトーンのリズム同期モードが、内部同期モードから、外部同期モードに切り替わります。もう一度同じ操作を行うと、外部同期モードから、内部同期モードに戻ります。外部同期モードへの切り替えは、リズムマシンやリズム機能を備えた楽器の信号を、エレクトーンに受信させる場合に行ってください。（通常のMIDI交信では、この操作を行う必要はありません。）なお、いったん電源をOFFにすれば、リズム同期モードは自動的に内部同期モードに戻ります。

④リードボイスの受信チャンネルの分離

外部機器からMIDI信号を受信している時、リードボイスは、上鍵盤(1チャンネル)または下鍵盤(2チャンネル)で受信した演奏データに従って発音しますが、右記の操作を行うと、4チャンネルで送信されてくる演奏データに従って発音ようになります。この操作は、MDR-2Pなどにリードボイスの演奏だけを4チャンネルで録音し、それを再生する時、またはリモートキーボードなどからリードボイスだけの演奏データを送信させたい時に行ってください。なお、もう一度同じ操作を行うか、電源をOFFにすれば、この受信チャンネルの分離は解除されます。

⑤アルペジオコードの受信チャンネルの分離

外部機器からMIDI信号を受信している時、アルペジオコードは、下鍵盤(2チャンネル)で受信した演奏データに従って発音しますが、右記の操作を行うと、5チャンネルで送信されてくる演奏データに従って発音ようになります。この操作は、MDR-2Pなどにアルペジオコードの演奏だけを5チャンネルで録音し、それを再生する時、またはリモートキーボードなどからアルペジオコードだけの演奏データを送信させたい時に行ってください。なお、もう一度同じ操作を行うか、電源をOFFにすれば、この受信チャンネルの分離は解除されます。

⑥エクスプレッションペダルのコントロールを本体で行うか外部機器で行うかの切り替え

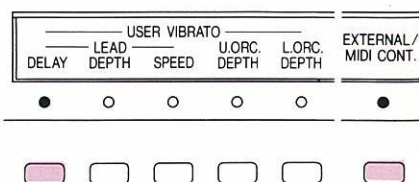
外部機器からMIDI信号を受信している時、右記の操作を行うと、エクスプレッションペダルのコントロールを外部機器で行える状態になり、もう一度同じ操作を行うか、電源をOFFにすれば、本体で行える状態になります。ただし、MDR-2Pなどの再生を行っている時は、自動的に受信する状態に切り替わりますから、エレクトーンのエクスプレッションペダルで再生の音量をコントロールしたい場合は、右記の操作を1回だけ行ってください。

⑦上鍵盤と下鍵盤の送信チャンネルの変更

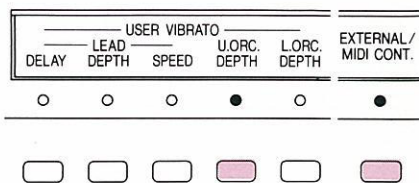
通常、上鍵盤の演奏データは1チャンネル、下鍵盤の演奏データは2チャンネルで送信されますが、右記の操作を行うと、上鍵盤は4チャンネル、下鍵盤は5チャンネルでデータを送信できるようになります。この操作は、MDR-2Pなどに録音する際、特定のチャンネル(リードボイスやアルペジオコードなど)の演奏を別のチャンネルで多重録音したい時に行ってください。

なお、もう一度同じ操作を行うか、電源をOFFにすれば、この送信チャンネルの変更は解除されます。

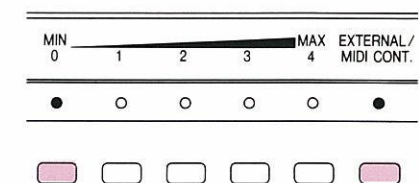
エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、ユーザービブラートのリードボタン(ディレイ、デブス、スピード)のいずれかを押す。



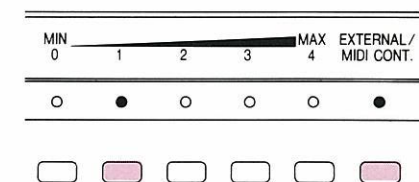
エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、ユーザービブラートのアップオーバーオーケストラデブスのボタンを押す。



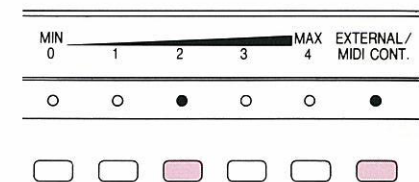
エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、0のボタンを押す。



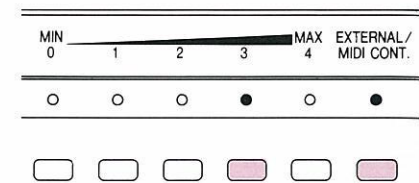
エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、1のボタンを押す。



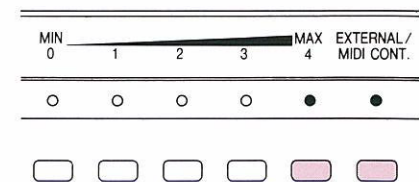
エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、2のボタンを押す。



エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、3のボタンを押す。



エキスターナル/MIDIコントロールのボタンを押しながら、4のボタンを押す。



HS MIDIコード一覧

■チャンネルメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8nH、nnH(ノートNo.)、00H-7FH	ノートオフ	×	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル (4チャンネル)* (5チャンネル)* 15チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード キーボードバーカッション
9nH、nnH(ノートNo.)、01H-7FH (ON) 00H (OFF)	ノートオン・オフ	1チャンネル(4チャンネル)* 2チャンネル(5チャンネル)* 3チャンネル	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル (4チャンネル)* (5チャンネル)* 15チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード キーボードバーカッション
BnH、01H、00H-7FH	モジュレーションホイール (HS-8のみ)	(4チャンネル)* 16チャンネル	1チャンネル 16チャンネル (4チャンネル)*	上鍵盤 コントロール リードボイス
BnH、04H、00H-7FH	セカンドエクスプレッションペダル (HS-8のみ)	(4チャンネル)* 16チャンネル	1チャンネル 16チャンネル (4チャンネル)*	上鍵盤 コントロール リードボイス
BFH、0BH、00H-7FH BnH、40H、7FH 00H (ON) (OFF)	エクスプレッションペダル サステイン	16チャンネル 1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル	16チャンネル 1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル	コントロール 上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤
BnH、7BH、00H	オールノートオフ	×	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル (4チャンネル)* (5チャンネル)* 16チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード コントロール
CnH、nnH(レジストNo.)	プログラムチェンジ	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 コントロール
DnH、00H-7FH	アフタータッチ	1チャンネル (4チャンネル)* 2チャンネル (5チャンネル)* 3チャンネル	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル (4チャンネル)* (5チャンネル)*	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード
EnH、(00H-7FH)、00H-7FH	ピッチベンダー (HS-8のみ)	(4チャンネル)* 16チャンネル	1チャンネル 16チャンネル (4チャンネル)*	上鍵盤 コントロール リードボイス

* マルチメニューのエキステナール/MIDIコントロール機能で変更。(⇒76ページ)

■システムリアルタイムメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
F8H	クロック	○	○	受信: 外部同期モード時
FAH	スタート	○	○	
FBH	ストップ	○	○	
FEH	アクティブセンシング	×	○	
FFH	リセット	×	○	

■システムエクスクルーシブメッセージ

コード	メッセージ	備考
F0H、43H、70H、70H(エレクトーン)、……、F7H	1. エレクトーン共通メッセージ	(⇒Page 78)
F0H、43H、70H、72H(HS)、……、F7H	2. HSシリーズ共通メッセージ	(⇒Page 79)
F0H、43H、70H、nnH(モデル)*……、F7H	3. モデル固有メッセージ	(⇒Page 80)
F0H、43H、73H、……、F7H	4. エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ	(⇒Page 80)

* HS-4=15H、HS-5=16H、HS-6=17H、HS-7=18H、HS-8=19H

1. エレクトーン共通メッセージ

■バルクダンプデータ関係

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、70H、70H、00H、……(データ)……、F7H	バルグダンプデータ	×	○
01H	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02H	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0H、43H、70H、70H、10H、F7H	全RAMデータ送信要求	×	○
11H	レジストレーションデータ送信要求	×	○
12H	C.S.P./R.S.P.データ送信要求	×	○
13H	F.M.P.データ送信要求	×	○
14H	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15H	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16H	ユーザーボイスデータ送信要求	×	○
F0H、43H、70H、70H、20H、F7H	全RAMデータ受信要求	×	○
21H	レジストレーションデータ受信要求	×	○
22H	C.S.P./R.S.P.データ受信要求	×	○
23H	F.M.P.データ受信要求	×	○
24H	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25H	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26H	ユーザーボイスデータ受信要求	×	○
F0H、43H、70H、70H、30H、F7H	モデルIDデータ	×	○
F0H、43H、70H、70H、38H、7FH、F7H 00H	バルクダンプアクノリッジ アンアクノリッジ	○	×

■コントロールチェンジ

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、70H、70H、40H、45H、7FH、F7H (ON) 00H (OFF)	フットスイッチレフト	○	○
40H、47H、7FH (ON) 00H (OFF)	ニーレバー	○	○
40H、48H、7FH (ON) 00H (OFF)	フィルイン1	○	○
40H、49H、7FH (ON) 00H (OFF)	フィルイン2	○	○
40H、4BH、7FH (ON) 00H (OFF)	イントロ/エンディング	○	○
40H、4CH、7FH (ON) 00H (OFF)	ユーザーフィルイン	○	○
40H、4FH、00H-7FH	マスターボリューム	○	×
40H、50H、TI、Th	テンポ	○	○

■MDR-2P関係

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、70H、70H、70H、01H、F7H (スタート) 70H、02H (ストップ)	プレイ	×	○
70H、03H (スタート) 70H、04H (ストップ)	レコード	×	○
70H、05H (スタート) 70H、06H (ストップ)	早送り	×	○
70H、07H (スタート) 70H、08H (ストップ)	巻戻し *	×	×
70H、09H	リズムポインターリセット	×	○

*MDR-2Pで巻戻しボタンを押した時は、リズムポインターリセットと早送りの信号が送られる。

■その他

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、70H、70H、72H、00H、7FH、F7H (ON) 00H (OFF)	エキスターナルコントロール ディレイ	○	○
72H、01H、7FH (ON) 00H (OFF)	デプス		
72H、02H、7FH (ON) 00H (OFF)	スピード		
F0H、43H、70H、70H、78H、SC、NC、F7H	パーシングナル	○	○

2. HSシリーズ共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0H、43H、70H、72H、00H、……(データ)……、F7H	バルクダンプデータ	○*	○
01H	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02H	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0H、43H、70H、72H、41H、……(データ)……、F7H	パネルスイッチイベントデータ **	○	○
F0H、43H、70H、72H、42H、……(データ)……、F7H	カレントレジストレーションデータ	○	○

*音色パラメーターデータのみ。 **下表参照。

●スイッチコード一覧

[F0H、43H、70H、72H、41H、nnH(SWコード)、nnH(SWデータ)、F7H]

ファンクション／スイッチ		SWコード	SWデータ	備 考
セレクトター	アッパーコンビネーションボイス	00H	00H-03H	スイッチナンバー
	ロワーコンビネーションボイス	01H	00H-03H	スイッチナンバー
	アッパーオーケストラボイス	02H	00H-05H	スイッチナンバー (HS-8/7/6:00H-03H)
	ロワーオーケストラボイス	03H	00H-05H	スイッチナンバー (HS-8/7:00H-03H)
	パーカッションボイス	04H	00H-03H	スイッチナンバー
	AWMプリセット	05H	00H-03H	スイッチナンバー
	リードボイス	06H	00H-03H	スイッチナンバー
	ベースボイス	07H	00H-03H	スイッチナンバー
	AWMベースボイス	08H	00H-01H	スイッチナンバー
	アルペジオコード (プリセット)	09H	00H-03H	スイッチナンバー
	アルペジオコード (ユーザー)	0AH	00H-02H	00H=OFF、01H-02H=スイッチナンバー
	リズム (プリセット)	0BH	00H-0DH	スイッチナンバー
	リズム (ユーザー)	0CH	00H-02H	00H=OFF、01H-02H=スイッチナンバー
ボリューム	アッパーコンビネーションボイス	10H	00H-7FH	ボリュームデータ
	ロワーコンビネーションボイス	11H	00H-7FH	ボリュームデータ
	アッパーオーケストラボイス	12H	00H-7FH	ボリュームデータ
	ロワーオーケストラボイス	13H	00H-7FH	ボリュームデータ
	パーカッションボイス	14H	00H-7FH	ボリュームデータ
	AWMプリセット	15H	00H-7FH	ボリュームデータ
	リードボイス	16H	00H-7FH	ボリュームデータ
	ベースボイス	17H	00H-7FH	ボリュームデータ
	AWMベースボイス	18H	00H-7FH	ボリュームデータ
	アルペジオコード	19H	00H-7FH	ボリュームデータ
	リズム	1AH	00H-7FH	ボリュームデータ
	リバーブ	1BH	00H-7FH	ボリュームデータ
バランス	マニュアルバランス	20H	00H-0CH	バランスデータ
	リズムバランス	21H	00H-0CH	バランスデータ
アンサンブル	アッパーコンビネーション	30H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワーコンビネーション	31H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	アッパーオーケストラ	32H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワーオーケストラ	33H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	パーカッション	34H	00H-02H	00H=OFF、01H=アッパー ON、02H=ロワー ON
	AWMプリセット	35H	00H-03H	00H=OFF、01H=アッパー ON、02H=ロワー ON、03H=アッパー&ロワー ON
	リード	36H	00H-02H	00H=OFF、01H=アッパー ON、02H=ロワー ON
トレモロ／シンフォニック	シンフォニック／セレステ	40H	00H-01H	00H=シンフォニック ON、01H=セレステ ON
	アッパーオーケストラ	41H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワーオーケストラ	42H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	トレモロ／コーラス	43H	00H-02H	00H=OFF、01H=トレモロ ON、02H=コーラス ON
	アッパーコンビネーション	44H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワーコンビネーション	45H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON (HS-6=ロワーオーケストラ)
	アッパーオーケストラ	46H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
フランジャー／ディレイ	ロワーオーケストラ	47H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	リード	48H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	AWMプリセット	49H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	AWMベース	4AH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	アルペジオコード	4BH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
サステイン	アッパー	50H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワー	51H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ペダル	52H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
ユーザービブラート	リード	53H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	アッパーオーケストラ	54H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ロワーオーケストラ	55H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
A. B. C.	ON	56H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	メモリー	57H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ON	58H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
M. O. C.	ナロー	59H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ON	5AH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	モジュレーション	5BH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
キーボードパーカッション	ロワー	5BH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	ペダル	5CH	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
F. M. P. C. S. P. / R. S. P.	スタート	60H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	1	61H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	2	62H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	3	63H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	4	64H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	C. S. P. プレイ	65H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON
	R. S. P. プレイ	66H	00H-01H	00H=OFF、01H=ON

3. モデル固有メッセージ

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、70H、nnH*、00H、……(データ)……、F7H	バルクダンプデータ	○**	○
	モデルIDデータ	○	×
	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0H、43H、70H、nnH*、10H、F7H	全RAMデータ送信要求	×	○
	レジストレーションデータ送信要求	×	○
	C.S.P./R.S.P.データ送信要求	×	○
	F.M.P.データ送信要求	×	○
	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
	ユーザーボイスデータ送信要求	×	○
F0H、43H、70H、nnH*、20H、F7H	全RAMデータ受信要求	×	○
	レジストレーションデータ受信要求	×	○
	C.S.P./R.S.P.データ受信要求	×	○
	F.M.P.データ受信要求	×	○
	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
	ユーザーボイスデータ受信要求	×	○

* HS-4=15H、HS-5=16H、HS-6=17H、HS-7=18H、HS-8=19H
** 音色パラメーターデータを除く。

4. エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送 信	受 信
F0H、43H、73H、01H、02H、F7H	内部同期モード要求	×	○
	外部同期モード要求	×	○

Electone HS シリーズ

MIDI インプリメンテーションチャート

Date: 3/20, 1987
Version: 1.0

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	デフォルト	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル 4チャンネル 5チャンネル	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 15チャンネル 16チャンネル 4チャンネル 5チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 キーボードパーカッション コントロール 上鍵盤 下鍵盤 リードボイス アルペジオコード
	設定可能			
モード	デフォルト メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー		48-96 36-84 36-55 × × × *****	36-96 36-96 36-96 36-96 36-96 36-96 36-96	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード キーボードパーカッション 上/下/ペダル鍵盤
	音域			
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○9nH、v=1-127 ○9nH、v=0	○9nH、v=1-127 ○9nH、v=0、8nH	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ○	× ○	
ピッチベンダー		○	○0-12セミ	7ビットレゾリューション (HS-8)
コントロールチェンジ	I 4 11 64	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ (外部モード時のみ) ○	モジュレーションホイール(HS-8) セカンドエクスプレッションペダル(HS-8) エクスプレッションペダル サステイン
プログラムチェンジ	設定可能範囲	0-15(0-7)*、32-50、64-82 *****	0-15(0-7)*、32-50、64-82 0-15(0-7)*、32-50、64-82	レジストレーションメモリー レジストレーションメニュー
エクスクルーシブ		○ **	○ **	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	*** (FAH、FCH)
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × × ×	× ○ ○ ○	
備考		* 0-15=HS-8、0-7=HS-7/6/5/4 ** MIDIコード一覧参照。 *** 受信は外部同期モード時のみ。		

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ
モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

保証

エレクトーンへの保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1か年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項を記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。

The image shows a Yamaha Electone Warranty Card (ヤマハエレクトーン保証書). The card is titled 'ヤマハエレクトーン保証書' and 'MODEL HS-4・HS-5・HS-6・HS-7・HS-8'. It contains fields for '製造番号' (Serial Number), 'お買上げ日' (Purchase Date), '保証期間' (Warranty Period), '販売店名' (Sales Store Name), and '所在地' (Location). The warranty period is specified as '本体 お買上げの日から1ヶ年間' (Main body, from the date of purchase for 1 year). The card also includes a section for '出店修理' (Out-of-store repair) and a section for '保証期間中のサービス' (Service during warranty period). The card is signed by 'ヤマハ株式会社 楽器営業本部電子楽器課' (Yamaha Corporation, Instrument Sales Department, Electronic Instruments Section) and includes a stamp.

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1か年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社サービスセンターに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社サービスセンターにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1か年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に。

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(72～73ページの「故障だ」とお考えになる前に」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音がでる●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音がでるなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記のサービスセンターまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記サービスセンターが責任をもってアフターサービスを行っております。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点 (修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道サービスセンター

〒064 札幌市中央区南十条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
TEL.011-513-5036

仙台サービスセンター

〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL.022-236-0249

新潟サービスセンター

〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
TEL.025-243-4321

東京サービスセンター

〒101 千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
TEL.03-3255-2241

首都圏サービスセンター

〒211 川崎市中原区木月1184
TEL.044-434-3100

浜松サービスセンター

〒435 浜松市上西町911 ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-6711

名古屋サービスセンター

〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ㈱名古屋流通センター3F
TEL.052-652-2230

大阪サービスセンター

〒565 吹田市新芦屋1-16 ヤマハ㈱千里丘センター内
TEL.06-877-5262

四国サービスセンター

〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ㈱高松店内
TEL.0878-22-3045

広島サービスセンター

〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL.082-874-3787

九州サービスセンター

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092-472-2134

[本社]

カスタマーサービス部

〒435 浜松市上西町911 ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-1158

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

A

A. B. C. (AUTO BASS CHORD) 【エービーシー(オートベースコード)】
下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的に得られる機能。モード(弾き方)をマルチメニューで選び、ON/OFFはパネルのボタンで切り替える。(➡62ページ)
ACCENT 【アクセント】
リズムパターンプログラマーまたはリズムコードプログラマーで、パターンのステップ入力を行う時に押すボタン。(➡36・40ページ)
AFTER TOUCH 【アフタータッチ】
鍵盤を押さえた後、さらに押さえつけるタッチで行うコントロール。マルチメニューのタッチトーン、タッチビブラートをONにしている時、このタッチによって、音量と音色、またはビブラートがコントロールできる。(➡57ページ)
ALGORITHM 【アルゴリズム】
エレクトーンでは、FM音源の音色をつくるユニット(オペレーター)の組み合わせパターンのことをいう。(➡26ページ)
AR(ATTACK RATE) 【アタックレート】
ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。音の立ち上がりの音量変化または音色変化の速度を変えない時に選ぶ。(➡28ページ)
APREGGIO CHORD 【アルベジオコード】
下鍵盤でコードを押さえ続けるだけで、リズムに連動したさまざまな伴奏パターンが自動的に得られる機能。(➡14ページ)
AUX. IN 【オークスイン】
外部機器からの音声信号をライン入力する端子。(➡68ページ)
AUX. OUT 【オークスアウト】
エレクトーンの音声信号をアンプ・スピーカーなどの外部機器にライン出力する端子。(➡68ページ)
AWM(Advanced Wave Memory) 【エーダブリュエム】
アコースティック楽器の音をデジタル録音し、そのデータを電子楽器の音源としてメモリーしたヤマハならではの電子技術。HSシリーズの全機種のリズム音、およびHS-8のAWMプリセット、AWMベースボイスの音色には、この音源方式が採用されている。
AWM BASS VOICES 【AWMベースボイス】
HS-8のペダル鍵盤用音色群のひとつ。AWM音源方式の採用によって、極めてリアルな音色が得られる。(➡4ページ)
AWM PRESET 【AWMプリセット】
HS-8の上・下鍵盤用音色群のひとつ(15音ポリ)。AWM音源方式の採用によって、極めてリアルな音色が得られる。(➡4ページ)
AWM VOICE PACK 【AWMボイスパック】
AWM音源の音色データをメモリーしたROMパック。HS-8では、このパックを3個装着している。(➡5ページ)

B

BALANCE【バランス】
①リズムパターンを構成している楽器音の音量バランスをコントロールするボタン。(➡12ページ)
②ディレイ効果のパラメーターのひとつで、直接信号とディレイ信号の出力バランスを決める。(➡66ページ)
BALLAD 【バラード】
スイングにアフタービートのかかったリズムパターン。スローなポピュラーに適している。(➡12・32ページ)
BAR/BEAT 【バー/ビート】
小節数/拍数のこと。リズムをスタートさせると、テンポディスプレイは、スタートからの小節数と拍数を表示するようになる。(➡12ページ)
BASSOON 【バスーン】
木管のなかで最低音域を受け持つ楽器。ファゴットとも呼ばれる。(➡23ページ)
BASS VOICES 【ベースボイス】
HSシリーズの全機種に装備されているペダル鍵盤用の音色群。(➡4・6・8・10ページ)
BEAT 【ビート】
R. P. P.でリズムパターンを入力する際、リズムパターンの拍子を設定するボタン。(➡35ページ)
BOUNCE 【バウンス】
ジャズのリズムパターンのひとつで、ビッグバンドの曲などで使う。(➡12・32ページ)
BRASS 【ブラス】
金管楽器のことで、オーケストラルボイスの音色として用意されている。(➡4・6・8・10・23ページ)
BRILLIANCE 【ブリリアンス】
HS-8のモジュレーションホイールでコントロールできる効果のひとつ。ホイールをMAX側に回すと、音色が輝くような感じになる。(➡60ページ)

C

CARRIER 【キャリア】
FM音源の音色を創り出す“オペレーター”のうち、実際の音色の信号(音声信号)を出力するユニット。(➡26ページ)
CELESTA 【チェレスタ】
鉄琴のような音色が得られる鍵盤機構付きの楽器。(➡23ページ)
CELESTE 【セレステ】
音に広がりをもたせる効果のひとつ。シンフォニック効果に較べ、抑々くりとした感じに効果がかかる。(➡16ページ)
CHECK 【チェック】
R. S. P. またはC. S. P.のエディット時に、このボタンをONにして、リズムをスタートさせれば、現在のデータ位置にプログラムされているリズムパターンが発音する。(➡49ページ)
CHIME 【チャイム】
金属管を音階順に並べた打楽器。(➡23ページ)
CHORUS 【コーラス】
音に回転感をもたせる効果のひとつ。トレモロ効果に較べ、抑々くりと音が回転する。(➡16ページ)
CLAVI 【クラビネット】
16～18世紀ごろ使われていた単純な構造の鍵盤楽器。(➡23ページ)
CLEAR 【クリア】
①R. P. P./R. C. P.では、クリアボタンを押しながら、下鍵盤を押すことによって、すでに入力したパターンを打楽器ごとに消去することができる。(➡36・41ページ)
②C. S. P./R. S. P.では、前のデータを消して、新規のデータをプログラムする時に、クリアボタンを押す。(➡42・46ページ)
③F. M. P.では、前のデータを消して、新規に演奏を録音する時に、コピー/コンファームボタンを押しながらクリアボタンを押す。(➡50ページ)

COARSE 【コース】

このボタンを押しながら、▲または▼ボタンを押すことによって、テンポディスプレイの右端に表示される各種データの数値を、一度に粗く変更できる。(➡28・31・66ページ)
CODA(◇) 【コーダ】
終止部分に導くための音楽記号。C. S. P./R. S. P.では、繰り返しの部分がある場合に、このボタンを使う。(➡43ページ)
COMBI. (COMBINATION) 【コンビネーション】
「組み合わせ」という意味で、エレクトーンではオルガン音色のことをいう。(➡4・6・8・10・23ページ)
COMBI. BASS 【コンビベース】
オルガン系のベース音色。(➡23ページ)
COMBINATION VOICES 【コンビネーションボイス】
コンビネーション音色だけで構成されている音色群で、最大7音まで同時に発音する。(➡4・6ページ)
CONFIRM 【コンファーム】
「確認する」という意味で、トゥーバック(またはトゥーカセット)の操作を行う時は、このボタンを押しながらトゥーバックボタンを押す。フロムバック(またはフロムカセット)の操作を行う時は、このボタンを押しながらフロムバックボタンを押す。(➡18・20ページ)
COPY 【コピー】
①ボイスエディット機能では、エディットした音色データを登録する時、およびRAMパックに移したデータのうち、ユーザーボイスのデータだけを部分的に戻したい時などに使う。(➡30ページ)
②R. P. P./R. C. P.では、RAMパックに移したデータのうち、ユーザーパターンのデータだけをエレクトーンに部分的に戻したい時などに使う。(➡38ページ)
COPY/CONFIRM 【コピー/コンファーム】
F. M. P.で新規に演奏を録音する時、および記録した演奏のデータをRAMパックに移す時に使う。(➡50・54ページ)
COSMIC 【コスミック】
さまざまなイメージサウンドをプリセットした音色で、ボイスメニューに用意されている。(➡23ページ)
C. S. P. (CHORD SEQUENCE PROGRAMMER) 【シーエスピー(コードシーケンスプログラマー)】
コードおよびレジストレーションの再生順序をプログラムし、再生させることができる機能。(➡42ページ)
C. S. P. PLAY 【シーエスピープレイ】
C. S. P.にプログラムしたコードシーケンスを再生させる時にONにするボタン。(➡44ページ)
CUSTOM A. B. C. 【カスタムエービーシー】
オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえたコードのタイプとペダル鍵盤で押さえた音が検出されベース伴奏が自動的に得られる。(➡62ページ)

D
DAL. SEGNO (D.S.) 【ダルセーニョ】
セーニョまで戻ること指示する音楽記号。C. S. P./R. S. P.では、繰り返しの部分がある場合に、このボタンを使う。(➡43ページ)
DATA 【データ】
テンポ/(データ)ディスプレイの右端に表示される各種データの数値を増減させる時に使うボタン。(➡28・31・66ページ)
DECAY 1 LEVEL 【ディケイ1レベル】
ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。持続を開始する時点のレベルを変えたい時に選ぶ。(➡28ページ)
DECAY 1 RATE 【ディケイ1レート】
ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。最大レベルから持続レベルまでの音量または音色変化の速度を変えたい時に選ぶ。(➡28ページ)
DECAY 2 RATE 【ディケイ2レート】
ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。持続を開始してから0になるまでの音量または音色変化の速度を変えたい時に選ぶ。(➡28ページ)
DELAY 【ディレイ】
①リードボイスにかけるユーザービブラートで設定できるパラメーターのひとつ。大きな数値に設定するほど、鍵盤を押さえてからビブラートがかり始めるまでの時間が遅くなる。(➡55ページ)
②音にエコーをつけ、広がり感をもたせる効果。マルチメニューでディレイボタンをONにし、パネルで効果をかける音色群を選ぶ。(➡65ページ)
DELETE 【ディリート】
「削除する」という意味で、C. S. P./R. S. P.でプログラムしたデータのなかから、不要なデータを削除したい時に押す。(➡45・49ページ)
DEPTH 【デプス】
①ユーザービブラートで設定できるパラメーターのひとつ。大きな数値に設定するほど、ビブラートが深くかかってくるようになる。(➡55ページ)
②フランジャーで変更できるパラメーターのひとつ。数値を増やすほど、変調が深くなる。(➡66ページ)
DISCO 【ディスコ】
ディスコダンス用のリズムパターンで、シンプルなビートと強めのアクセントが特徴。(➡12・32ページ)
DISPLAY 【ディスプレイ】
ボリュームファイン機能で、現在指定されているセクションを確認する時、および音量の設定を連続して行いたい時に使うボタン。(➡67ページ)
DISTORTION GUITAR 【ディストーションギター】
ディストーション効果(歪み)のきいたエレクトリックギターの音色。(➡23ページ)

E

EDIT 【エディット】
「編集する」という意味で、エレクトーンでは、プリセットデータやすでにプログラムした各種データを変更する時に用いる。(➡25・33・42・46ページ)
8 BEAT 【エイトビート】
ロックの基本的なリズムパターン。(➡12・32ページ)
ENDING 【エンディング】
リズムの終止パターン。リズムが発音している時、イントロ/エンディングスイッチを押すことで得られる。(➡13ページ)
ENSEMBLE 【アンサンブル】
上・下鍵盤の音色群のON/OFFを集中的にコントロールするボタン。(➡5・7・9ページ)

ENVELOPE GENERATOR 【エンベロープジェネレーター】

ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのうち、時間的な音量変化または音色変化がコントロールできるパラメーターの総称。(➡28ページ)
ERROR 【エラー】
RAMバックなどを使用している時、不適切な操作などによってデータが移らない場合に点滅するランプ。(➡20ページ)
EXTERNAL/MIDI CONTROL 【エキスターナル/ミディコントロール】
MIDIで交信する際、各種のコントロールを行うために使うボタン。(➡57・76ページ)
EXP. IN 【エクスプレッションイン】
外部機器の音声信号を入力し、その音量をエレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールしたい時に接続する端子。(➡68ページ)
EXPRESSION PEDAL 【エクスプレッションペダル】
エレクトーン全体の音量をコントロールできるペダル。

F

FEEDBACK 【フィードバック】
フランジャー効果とディレイ効果で変更できるパラメーターのひとつ。(➡66ページ)
FILL IN 【フィルイン】
リズムの変化パターン。リズムが発音している時、フィルイン1または2のスイッチを押すことで、プリセットのフィルインパターンが得られる。(➡13ページ)
FINGERED CHORD 【フィンガードコード】
オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえたコードが検出され、ベース伴奏が自動的に得られる。(➡62ページ)
FLANGER 【フランジャー】
音にうねりをもたせ、回転しているような感じが得られる効果。マルチメニューのフランジャーをONにし、パネルで効果をかける音色群を選ぶ。(➡65ページ)
FM (Frequency Modulation) 【エフエム】
周波数変調によって音色の成分を取り出し、一瞬一瞬でデジタル演算処理を行って、豊かな音楽を生み出す、ヤマハ独自の音源技術。
F. M. P. (FULL MUSIC PROGRAMMER) 【エフエムピー(フルミュージックプログラマー)】
エレクトーン演奏を、リアルタイムに録音し、再生させることができる機能。(➡50ページ)
FM VOICE PACK 【エフエムボイスパック】
さまざまなFM音色のデータをメモリーしているROMパック。(➡31ページ)
FOOT SWITCH 【フットスイッチ】
エクスプレッションペダルの左に付いているスイッチ。その働きは、マルチメニューのフットスイッチセクションで選ぶ。(➡58ページ)
FOOT SWITCH RIGHT 【フットスイッチライト】
HS-8のエクスプレッションペダルの右に付いているスイッチ。レジストレーションメモリーのコントロールができる。(➡58ページ)
FROM CASSETTE 【フロムカセット】
付属端子のひとつで、カセットテープに移しておいたデータをエレクトーンに戻す時に使う。(➡21ページ)
FROM FM VOICE PACK 【フロムエフエムボイスパック】
FMボイスパックの音色をエレクトーンに呼び出す時に押すボタン。(➡31ページ)
FROM PACK 【フロムパック】
RAMパックに移したデータをエレクトーンに呼び戻す場合に使うボタン。コンファームボタンまたはコピーボタンを押しながら、このボタンを押す。(➡20・30・38・54ページ)

G H

GLIDE 【グライド】
音程を一時的に半音下げ、徐々に元の音程に戻すことができる効果。フットスイッチでコントロールする。(➡58ページ)
GUIDE 【ガイド】
HS-8に付いている液晶ディスプレイ。各種メッセージが表示される。
HARPSICHOORD 【ハープシコード】
16～18世紀頃に使われた鍵盤楽器で、チェンバロとも呼ばれる。(➡23ページ)
HEADPHONES 【ヘッドホン】
ヘッドホンを接続する端子。(➡68ページ)

I
INITIAL TOUCH 【イニシャルタッチ】
鍵盤を叩く時のタッチで行うコントロール。マルチメニューのタッチトーンをONにしている時、このタッチによって音量と音色がコントロールできる。(➡57ページ)
INSERT 【インサート】
「挿入する」という意味で、C. S. P./R. S. P.でプログラムしたシーケンスデータの途中に、新たなデータを挿入したい時に押す。(➡45・49ページ)
INTRO. 【イントロ】
リズムの前奏パターン。イントロ/エンディングスイッチをONにしてから、リズムをスタートさせることで得られる。(➡13ページ)

K

KEYBOARD PERCUSSION 【キーボードパーカッション】
下鍵盤またはペダル鍵盤を弾くことで、いろいろな打楽器の音を発音させることができる機能。(➡15ページ)
KNEE CONTROL 【ニーコントロール】
このボタンをONにすると、ニーレバーでメロディーオンコードのON/OFFをコントロールできるようになる。(➡64ページ)
KNEE LEVER 【ニーレバー】
膝で操作するレバーで、サステイン、メロディーオンコードのON/OFFをリアルタイムにコントロールできる。(➡56・64ページ)

L

LEAD SLIDE 【リードスライド】
このボタンをONにすると、リードボイスにホルタメント(音程が連続してスライドする効果)がかかるようになる。(➡58ページ)
LEAD VOICES 【リードボイス】
上・下鍵盤用の音色群のひとつで、ソロ楽器がプリセットされている。同時に1音のみ発音するモノフォニックの音色群。(➡4・6・8・10ページ)
LOWER 【ローワ】
「下」の意味で、エレクトーンでは下鍵盤関係のことをいう。

M N

MANUAL BALANCE 【マニュアルバランス】

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを設定するコントロール。(➡5・7・9・10ページ)

MARIMBA 【マリンバ】

共鳴管の付いた大型の木琴。(➡23ページ)

MASTER VOLUME 【マスターボリューム】

エレクトーン全体の音量を調節するつまみ。

MEMORY 【メモリー】

①レジストレーションメモリーにパネルのセッティングを記憶させる時に押すボタン。(➡18ページ)

②鍵盤から指を離した後も、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏を持続させる機能。(➡63ページ)

MEMORY PROTECT 【メモリープロテクト】

RAMバックに付いているデータ消去防止用のスイッチで、ONにすると新たなデータは書き込まれない。(➡20ページ)

METRONOME 【メトロノーム】

①R. P. P. のリアルタイム入力時に、このボタンをONにすると、セットしているテンポに応じてメトロノーム音が発音する。(➡36ページ)

②F. M. P. のレコード時に、このボタンをONにすると、リズムをスタートさせるまで、セットしているテンポに応じてメトロノーム音が発音する。(➡50ページ)

MIC. 【マイク】

マイクrophonを接続する端子。接続したマイクrophonの音量は、マイクボリュームでコントロールできる。(➡68ページ)

MIDI 【ミディ】

ミュージカル・インストルメント・デジタル・インターフェースを略したもので、デジタル電子楽器などのデータ交信用に決められた世界統一規格。

MIDI IN/OUT 【ミディイン/アウト】

外部のMIDI対応機器とデータ交信を行う時に接続する端子。(➡68・69ページ)

M. O. C. (MELODY ON CHORD)

【エムオーシー(メロディーオンコード)】

上鍵盤で弾くメロディーに、ハーモニーを自動的に付けることができる機能。(➡64ページ)

MODULATION 【モジュレーション】

HS-8に装備されているホイールを操作することによって、ビブラートやブリアンス効果のかり具合をリアルタイムにコントロールできる機能。(➡60ページ)

MODULATOR 【モジュレーター】

FM音源の音色を創り出す「オペレーター」のうち、ほかのオペレーターに変調信号を出力するユニット。(➡26ページ)

MULTI MENU 【マルチメニュー】

12面のスクリーンに、さまざまな機能を内蔵させた回転式のパネル。

NARROW 【ナロー】

HS-8に装備されているピッチホイール機能の変化幅を選択するボタン。OFFで変化幅は広くなり、ONにすると変化幅が狭くなる。(➡59ページ)

O

OPERATOR 【オペレーター】

FM音源方式で音色を創り出すために、さまざまな信号を発生するユニット。エレクトーンHSシリーズでは、4つのオペレーターを組み合わせて音色を創っている。(➡26ページ)

ORCHESTRAL VOICES 【オーケストラルボイス】

上鍵盤と下鍵盤用の音色群のひつつて、主に持続音がプリセットされている。最大7音まで同時に発音するポリフォニック音群。(➡4・6・8・10ページ)

ORIGINAL PATTERN 【オリジナルパターン】

このボタンを押しながら、リズムセクションにある付点ボタンを押すことで、リズムメニューのパターンが解除される。(➡32ページ)

ORIGINAL VOICE 【オリジナルボイス】

このボタンを押しながら、各音色群およびアルペジオコードの付点ボタンを押すことで、ボイスメニューの音色が解除される。(➡24ページ)

OUTPUT LEVEL 【アウトプットレベル】

ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。全体の音量または音色を変えたい時に選ぶ。(➡28ページ)

P Q

PACK 【パック】

RAMパックまたはROMパックを装着し、コントロールするセクション。(➡20・31ページ)

PAN 【パン】

R. P. P. の入力時に、各打楽器の定位(スピーカーから出てくる音の方向)を変更することができる機能。(➡35ページ)

PAN FLUTE 【パンフルート】

牧歌的な響きをもった素朴な管楽器。(➡23ページ)

PARAMETER 【パラメーター】

「媒介変数」のことで、エレクトーンでは、各種データの項目のことをいう。(➡28・65ページ)

PEDAL 【ペダル】

エレクトーンでは、ペダル鍵盤関係のことをいう。

PERCUSSIVE VOICES 【パーカッシブボイス】

上・下鍵盤用の音色群のひとつで、減衰音がプリセットされている。最大7音まで同時に発音するポリフォニック音群。(➡6・8ページ)

PITCH 【ピッチ】

HS-8に装備されているホイールを操作することによって、ピッチベンドやテンポをリアルタイムにコントロールできる機能。(➡59ページ)

PITCH CONTROL 【ピッチコントロール】

エレクトーン全体のピッチを微調整することができる機能。(➡61ページ)

PLAY 【プレイ】

F. M. P. の再生を行うトラックを選択するボタン。レコードボタンをすべてOFFにして、F. M. P. スタートスイッチを押すと、プレイのボタンはすべてONになる。(➡54ページ)

POLKA 【ポルカ】

舞曲用の速い2拍子のリズムパターン。(➡32ページ)

POWER 【パワー】

エレクトーンの電源をON/OFFするスイッチ。

QUANTIZE 【クオンタイズ】

R. P. P. またはR. C. P. の入力時に、音符の分解能を設定するセクション。リアルタイム入力時には、設定した分解能に応じて、入力される音符の位置が自動的に補正される。(➡35ページ)

R

RAM PACK 【ラムパック】

RAMとはランダムアクセスメモリーの略。データの読み出しと書き込みが可能なIC内蔵のメモリーパック。(➡20ページ)

R. C. P. (RHYTHMIC CHORD PROGRAMMER)

【アールシーピー(リズムミックコードプログラマー)】

アルペジオコードのリズムミックパターン (リズムに連動してコードがきざまれるパターン)を自分で作成することができる機能。(➡39ページ)

READY 【レディ】

RAMパックまたはROMパックを挿入した時に点灯して、データのメモリーができる状態であることを示すランプ。(➡20ページ)

REAL TIME WRITE 【リアルタイムライト】

R. P. P./R. C. P. のパターン入力方法のひとつで、リズムのスタートスイッチをONにし、下鍵盤をリアルタイムに叩いて入力する。(➡36・40ページ)

RECORD 【レコード】

F. M. P. の録音を行うトラックを選択するボタン。コピー/コンファームボタンを押しながら、クリアボタンを押すと、すべてONになる。(➡50ページ)

REGISTRATION 【レジストレーション】

「登録」という意味で、エレクトーンでは、各種のサウンドをつくりだすために行う、音色、効果、リズムなどのセッティングのことをいう。

REGISTRATION MEMORY 【レジストレーションメモリー】

パネルやマルチメニューでセットしたレジストレーションを記憶させ、それをいつでも再現させることができる機能。(➡18ページ)

REGISTRATION MENU 【レジストレーションメニュー】

さまざまな音楽ジャンルのレジストレーションがプリセットされている機能で、ボタンひとつで再現させることができる。(➡22ページ)

REGGAE 【レゲエ】

独特の弾み感をもった後ノリのリズムパターン。(➡32ページ)

REVERB 【リバーブ】

音に残響をつける効果。(➡17ページ)

RHYTHM 【リズム】

リズム関係の機能の総称。(➡12ページ)

RHYTHM MENU 【リズムメニュー】

パネルのリズムセクションにある付点ボタンに、さまざまなリズムパターンを移すことができる機能。(➡32ページ)

RHYTHM STOP 【リズムストップ】

フットスイッチの機能のひとつで、リズムのストップと再スタートがコントロールできる。(➡58ページ)

RHYTHM OUT 【リズムアウト】

HS-8に装備されている付属端子のひとつ。リズムの信号だけを外部機器に出力させることができる。(➡68ページ)

ROM PACK 【ロムパック】

ROMとはリードオンリーメモリーの略。読み出し専用のメモリーパック。(➡5・31ページ)

R. P. P. (RHYTHM PATTERN PROGRAMMER)

【アールピーピー(リズムパターンプログラマー)】

リズムパターンやフィルインパターンを、新規作成またはエディットし、ユーザーパターンとして登録することができる機能。(➡33ページ)

RR(RELEASE RATE)【リリースレート】

ボイスエディット機能で変更できる音色パラメーターのひとつ。鍵盤を離してから01になるまでの音量変化または音色変化の速度を変えたい時に選ぶ。(➡28ページ)

R. S. P. (RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER)

【アールエスピー(リズムシーケンスプログラマー)】

リズムの再生順序をプログラムし、再生させることができる機能。(➡46ページ)

R. S. P. PLAY 【アールエスピープレイ】

R. S. P. にプログラムしたリズムシーケンスを再生させる時にONにするボタン。(➡48ページ)

S

SALSA 【サルサ】

ポップな感覚をもったラテン系のリズムパターン。(➡32ページ)

SECOND EXPRESSION PEDAL 【セカンドエクスプレッションペダル】

HS-8用に用意されているオプションのペダルで、ピッチベンドやテンポをリアルタイムにコントロールすることができる。(➡58ページ)

SEGN(♩)【セーニョ】

ダルセーニョから戻って繰り返す位置を示す音楽記号。C. S. P./R. S. P. では、繰り返しの部分がある場合に、このボタンを使う。(➡43ページ)

SINGLE FINGER 【シングルフィンガー】

オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤でコードの根音を押さえることで、コードとベースの自動伴奏が得られる。(➡62ページ)

16 BEAT 【シックスティーンビート】

16分音符を基本としたリズムパターンで、ロックやフュージョンなどで使われる。(➡12・32ページ)

SPEAKER OUT 【スピーカーアウト】

エレクトーン本体のスピーカーに音声信号を出力させるための端子。(➡68ページ)

SPEED 【スピード】

①リードボイスにけるユーザービブラートのスピードを設定するパラメーター。(➡55ページ)

②フランジャー/ディレイ効果で変更できるパラメーターのひとつ。(➡66ページ)

START 【スタート】

①リズムをスタートさせる時に押すスイッチ。R. P. P./R. C. P. のリアルタイム入力時や、C. S. P./R. S. P. の再生時に使う。(➡12・36・40・44・48ページ)

②F. M. P. の録音または再生をスタートさせる時に押すスイッチ。(➡50・54ページ)

STEEL DRUM 【スティールドラム】

カリブツなどで使われる素朴なメロディー打楽器。(➡23ページ)

STEP WRITE 【ステップライト】

R. P. P. またはR. C. P. で1ステップごとにパターンを入力する時に操作するセクション。(➡36・40ページ)

STRINGS 【ストリングス】

弦楽器のことで、オーケストラルボイスの音色として用意されている。(➡4・6・8・10・23ページ)

SUSTAIN 【サステイン】

鍵盤を離れた後、音に余韻をつける効果。余韻の長さはマルチメニューで設定し、ON/OFFの切り替えはパネルのボタンで行う。(➡56ページ)

SYMPHONIC 【シンフォニック】

複数の楽器で演奏しているような豊かな広がり感が得られる効果。(➡16ページ)

SYNCHRO START 【シンクロスタート】

このスイッチをONにしておくと、下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえることでリズムをスタートさせることができる。(➡12ページ)

SYNTH STRING, SYNTH BRASS, SYNTH LEAD

【シンセストリング、シンセブラス、シンセリード】

シンセサイザーの音色をイメージした音色で、ボイスメニューに用意されている。(➡23ページ)

SWING 【スイング】

ジャズの標準的なリズムパターン。(➡12・32ページ)

T

TEMPO 【テンポ】

リズムの速さを設定するつまみ。(➡12ページ)

TEMPO/(DATA) 【テンポ/(データ)】

リズムのテンポや小節数・拍数を表示するほか、マルチメニュー機能の各種データを表示するディスプレイ。(➡12・26・31・66ページ)

TIMPANI 【ティンパニ】

オーケストラでよく使われる大型の打楽器。(➡23ページ)

TO CASSETTE 【トゥーカセット】

カセットテープにエレクトーンのデータを移す時に使う端子。(➡21ページ)

TO PACK 【トゥーパック】

エレクトーンのデータをRAMパックに移す時に使うボタン。コンファームボタンまたはコピーボタンを押しながら、このボタンを押す。(➡20・21・30・38・54ページ)

TO PEDAL 【トゥーペダル】

ペダル鍵盤ユニットのコードを接続する端子で、各種信号を入/出力する。(➡68ページ)

TOUCH TONE 【タッチトーン】

このセクションのボタンをONにすると、鍵盤を弾くタッチによって、音量と音色が微妙にコントロールできるようになる。(➡57ページ)

TOUCH VIBRATO 【タッチビブラート】

このセクションのボタンをONにすると、鍵盤を弾くタッチによって、ビブラートのかり具合が微妙にコントロールできるようになる。(➡57ページ)

TRANSPPOSITION 【トランスポジション】

エレクトーン全体のキーを、半音の単位で、上下半オクターブまで変えることができる機能。(➡61ページ)

TREMOLO 【トレモロ】

音に回転感をもたせる効果のひとつ。コーラス効果に較べ、速く音が回転する。(➡16ページ)

TREMOLO SPEED 【トレモロスピード】

トレモロ効果の回転スピードをセットすることができる機能。(➡56ページ)

U

UPPER 【アッパー】

「上」の意味で、エレクトーンでは上鍵盤関係のことをいう。

USER 【ユーザー】

①リズムセクションのユーザー1とユーザー2のボタンでは、R. P. P. で作成したリズムのユーザーパターンが得られる。(➡38ページ)

②アルペジオコードのユーザー1とユーザー2のボタンでは、R. C. P. で作成したリズムミックコードのユーザーパターンが得られる。(➡41ページ)

USER FILL IN 【ユーザーフィルイン】

このスイッチをONにすると、R. P. P. で作成したフィルインのユーザーパターンが得られる。(➡38ページ)

USER VIBRATO 【ユーザービブラート】

リードボイスとオーケストラルボイスにけるビブラートのかり具合を自分でセットすることができる機能。(➡55ページ)

USER VOICE 【ユーザーボイス】

ボイスエディット機能で変更した音色データを登録しておくボタン。登録した音色はパネルの付点ボタンに移して使う。(➡31ページ)

V

VARIATION 【バリエーション】

①レジストレーションメニューでは、このボタンをONにすると、各レジストレーションのバリエーションが得られる。(➡22ページ)

②リズムメニューでは、このボタンをONにすると、各リズムのバリエーションパターンを付点ボタンに移すことができる。(➡32ページ)

VIBRAPHONE 【ビブラフォン】

ファン付きの共鳴管をもった鉄琴。(➡23ページ)

VIBRATO 【ビブラート】

音をふるわせ、うるおいをもたせる効果。エレクトーンの音色には、それぞれにふさわしいように、あらかじめビブラートが組み込まれている。(➡55ページ)

VOCAL 【ボーカル】

人間のコーラスをイメージした音色。(➡4・6・8・23ページ)

VOICE 【ボイス】

エレクトーンでは、音色のことをいう。

VOICE EDIT 【ボイスエディット】

プリセットされている音色をエディットし、ユーザーボイスとして登録することができる機能。(➡25ページ)

VOICE MENU 【ボイスメニュー】

各音色群およびアルペジオコードにある付点ボタンに、さまざまな音色を移して使うことができる機能。(➡23ページ)

VOLUME FINE 【ボリュームファイン】

各セクションのボリュームを細かく設定することができる機能。(➡67ページ)

W

WAVE 【ウェーブ】

砂浜に打ちよせる波の音が得られる特殊な効果音。(➡23ページ)

WHISTLE 【ホイッスル】

口笛の音色。(➡23ページ)

WOOD 【ウッド】

木管楽器のことで、オーケストラルボイスの音色として用意されている。(➡4・6・8・10・23ページ)

鍵盤営業本部電子楽器営業部	〒430 浜松市中沢町10-1
エレクトーン営業課	TEL.053-460-2191
北海道支店営業推進課	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
	TEL.011-512-1550
仙台支店営業推進課	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
	TEL.022-222-6149
東京支店鍵盤推進課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
	TEL.03-3572-3140
関東支店営業推進課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
	TEL.03-3572-3120
名古屋支店鍵盤推進課	〒460 名古屋市中区錦1-18-28
	TEL.052-201-5140
大阪支店鍵盤推進課	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館
	TEL.06-252-7541
広島支店営業推進課	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
	TEL.082-244-3748
九州支店鍵盤推進課	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
	TEL.092-472-2152

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION
ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693004050

—EYTHS
取説HSシリーズ